

日々の
備え

生活と
仕事

写真

映像

音楽

インターネット

LANと
周辺
機器

トラブル

パソコンを楽しむ 活用ガイド

Guide book for personal computer

バックアップ
セキュリティ
ウイルス
ファイアウォール
個人情報
パスワード

年賀状
ハガキ
グリーティングカード
ワープロ
表計算
PDF

デジカメ
スライドショー
アルバム
色調補正
明度を上げる
CD-R

テレビ
ビデオ
録画
録画予約
編集
DVD制作

音楽CD
音楽配信
ダウンロード
携帯プレーヤ
CD制作

メール
アドレス帳
テレビ電話
ウェブ
ホームページ
ブログ

ネットワーク
無線LAN
USB
IEEE1394

困ったとき
他のマニュアル
リカバリディスク
購入時の状態への復帰

【日々の備え】

【生活と仕事】

【写真】

【映像】

【音楽】

【インターネット】

【LANと周辺機器】

【トラブル】

著者：日本ヒューレット・パッカード株式会社

© Copyright 2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

Microsoft、マイクロソフト、Windows、Windows Vista、Windows Vistaスタートボタン、Officeロゴ、Outlook、Hotmail は、米国Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Norton Internet Securityは、シマンテックコーポレーションの商標です。

ジャストホーム、楽々はがき、一太郎、写真スタジオ、BeatJamは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

三四郎は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標です。

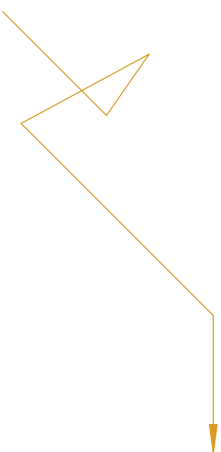
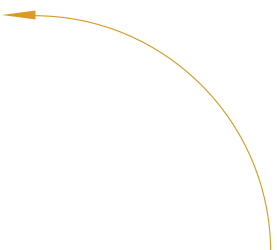
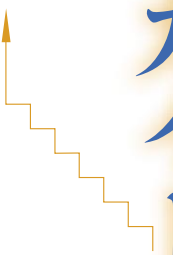
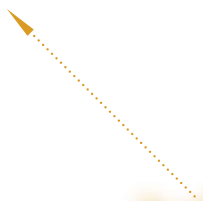
Adobe、Acrobat、Readerは、アドビシステムズ社の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

INFO.TVの名称は、株式会社インフォシティの登録商標です。

その他、本書に記載されている社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

パソコンを楽しむ 活用ガイド

Guide book for personal computer



はじめに

■これは、HPのパソコンのいろいろな使い方を紹介するガイドブックです。

■普段の暮らしや仕事、音楽や写真やビデオの鑑賞や整理など、広範囲に、できるだけ多くの情報をつめこみました。

■あなたの気になるページを探して、そこから読み始めてください。

■新しい街に引っ越して、はじめてのCDショップや雑貨店や公園や映画館を訪れるように、少しずつはじめてのドアを開いてください。

■見たことのない新しいものや、なつかしくて忘れられないものが、きっと見つかると思います。

日々の備え..... **004**

- 006 —— バックアップでいざというときに備える
- 008 —— ウィルスからパソコンを守る
- 010 —— ファイアウォールで外からの侵入を防ぐ
- 012 —— 個人情報には気をつけて

生活と仕事..... **014**

- 016 —— オリジナルの年賀状やカードを作ろう
- 018 —— 使いこなそう、ワープロと表計算
- 020 —— どのパソコンでも開けるPDFファイル

写真..... **022**

- 024 —— 写真はパソコンで整理しよう
- 026 —— より魅力的に生まれ変わる写真
- 028 —— CD-Rで写真をプレゼント

映像..... **030**

- 032 —— パソコンをDVDシアターに
- 034 —— テレビを見る、録画する([Windows Media Center](#))
- 036 —— テレビを見る、録画する([INFO.TV Plus](#))
- 038 —— 録画予約は番組ガイドから([Windows Media Center](#))
- 040 —— 録画予約は番組表から([INFO.TV Plus](#))
- 042 —— 監督気分で映像を編集する
- 044 —— 映像はDVDに保存しよう

音楽..... **046**

- 048 —— パソコンで音楽を聴こう
- 050 —— 音楽はネットからダウンロード
- 052 —— 好きな音楽を持って外に出よう

インターネット..... **054**

- 056 —— メールを送る、メールを読む
- 058 —— 宛名や添付を使いこなしてメールの達人になる
- 060 —— メッセンジャーでテレビ電話
- 062 —— ウェブはあなたの情報源
- 064 —— ブログ([簡単更新型ホームページ](#))で日記をつける

LANと周辺機器..... **066**

- 068 —— 家中のパソコンをLANでつなぐ
- 070 —— 周辺機器([デバイス](#))を接続する

トラブル..... **072**

- 074 —— リカバリ ディスクを作成する
- 076 —— システムのリカバリを行う

索引..... **078**

日々の備え

son 備え

バックアップでいざというときに備える

ウイルスからパソコンを守る

ファイアウォールで外からの侵入を防ぐ

個人情報には気をつけて

P r o v i

■最初に注意事項から書き出すのは、気が引けるのですが、パソコンを安心して使うためには、いくつか気をつけなければいけないことがあります。

■パソコンを使っていると、メールや書類や写真など、大切なデータがたくさんたまってきます。

■このデータをまるまる失ってしまったら、これらのデータに含まれている個人情報や写真がインターネットを通じて外にもれるとたいへんです。

■そういう事態を防ぎ、もしそうなってもできるだけ被害を小さくするようにしなければなりません。

■そんなにめんどうなことではありません。最初にくいつかの設定をすること、普段からデータのバックアップをとっておくこと、あとは、インターネットで不用意な書き込みをしないことです。これで、多くの危険を回避できます。安心してパソコンを使うために、ぜひやってみてください。

日々の備え

Provision

バックアップでいざというときに備える

パソコンを、日々使っていると、ハードディスクにたくさんデータがたまってきます。メールや写真、書類など、データは大切なものです。ハードディスクのデータをうっかり上書きしてしまったり、データが消失したりするのを防ぐために、復旧したり元に戻りたりできるように、こまめにデータをバックアップしておけば、いざというときに安心です。

安全に使うためのこまめな保存

バックアップとは、実際に使うデータと同じデータを他の場所にコピーして保管しておくことです。コピーしたデータのこともバックアップといえます。

保管する場所には、H Pポケットメディアドライブ(別売)やハードディスク、DVDなど、容量が大きいメディアを使います。

定期的にバックアップしておけば、データがこわれたり、消えても、バックアップした時点の状態に復旧できるので、被害を軽減できます。

パソコンで文書を作るときは、こまめに保存し、その保存したファイルをこまめにバックアップしておく、いざというときにあわてなくてすみます。

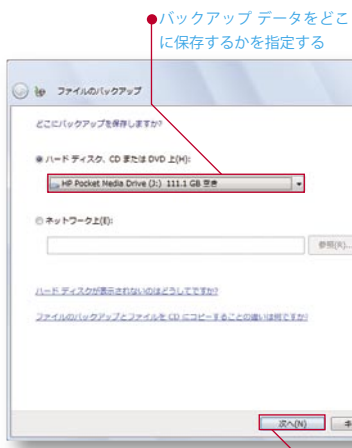
定期的にバックアップされるように設定する

Windows Vista™には、ハードディスクに作った文書、写真、音楽などのファイルやメールなどを自動的にバックアップする機能があります。最初に設定しておけば、自動的にバックアップされます。

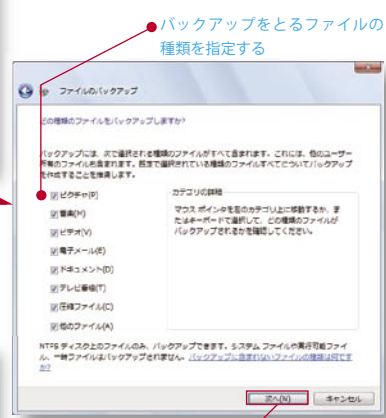
[スタート]→[コントロール パネル]→[システムとメンテナンス]→[バックアップと復元センター]でこの画面が表示される



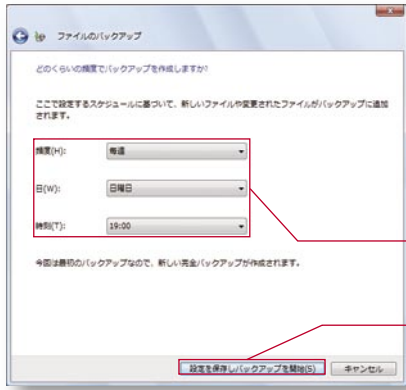
バックアップの設定をするときは、「ファイルのバックアップ」をクリックする



[次へ]をクリックし、次の画面でバックアップをとるデータが入っているディスクを指定して、[次へ]をクリックする



バックアップをとるファイルの種類を指定する



[次へ]をクリックする

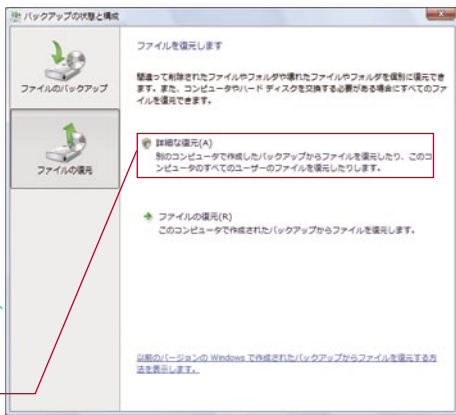
バックアップをとる頻度(毎日、毎週、毎月)や時刻を指定する

[設定を保存しバックアップを開始]をクリックするとバックアップがはじまる。初回は全データのバックアップを行うので時間がかかる

上書きや削除でなくなった ファイルを復元する

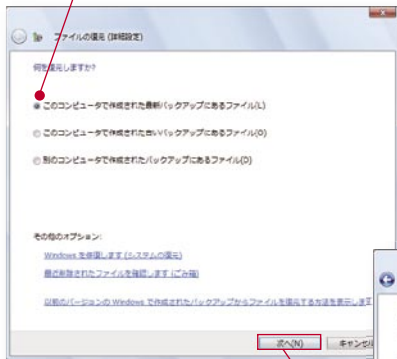
削除した直後のファイルはごみ箱に残っています(下欄参照)が、一部を削除して保存した文書を元に戻したいときや、同じ名前の別のファイルで上書きしてしまったときは、バックアップから復元するしかありません。

[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[バックアップの状態と構成]でこの画面が表示される

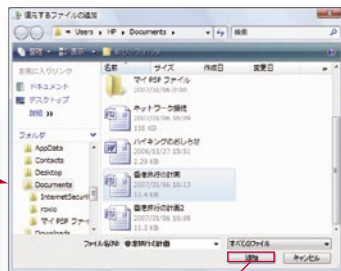
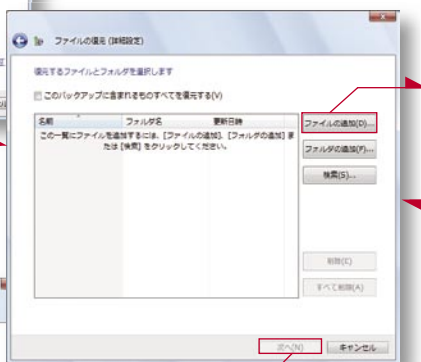


●最後にバックアップした状態のファイルを復元したいときは、[このコンピュータで作成された最新バックアップにあるファイル]を選ぶ

ファイル単位で復元する場合は、画面左の[ファイルの復元]をクリックして、[詳細な復元]をクリックする



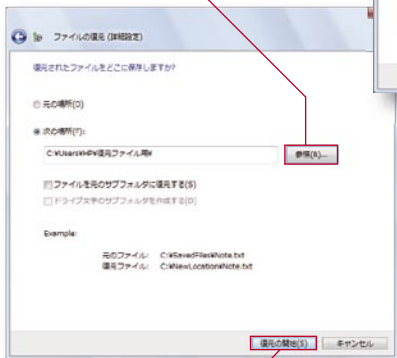
[ファイルの追加]をクリックする



バックアップファイル内のフォルダ・ファイルが表示される。復元するファイルを選んで[追加]をクリックする

[次へ]をクリックする

[参照]をクリックして復元したファイルを保存する場所を指定する



●復元したいファイルをすべて追加したら、[次へ]をクリックする



定期的なものでなければ、DVDもバックアップに使える



バックアップなどの大容量のバックアップに便利なHPポケットメディアドライブ(別売)

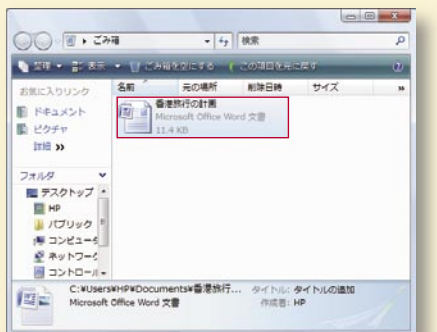
[復元の開始]をクリックする

削除したファイルは ごみ箱に残っている

ごみ箱に入れたファイルは、ごみ箱の中に保管されます。ファイルやフォルダを右クリックして[削除]を選んだ場合もごみ箱に保管されます。

ごみ箱を開いて、ファイルを選び、[この項目を元に戻す]をクリックすると、そのファイルがごみ箱に入れられる前にあったフォルダに戻ります。

[ごみ箱を空にする]を選ぶと、ごみ箱からも消えてしまいます。



日々の備え

Provision

ウイルスからパソコンを守る

インターネットにつながったパソコンは、つねに危険にさらされています。ウイルスなどの悪意のあるプログラムは、メールの添付ファイルやホームページからダウンロードしたファイル、CDやメモリカードなどで受け取ったファイルとして、パソコンに侵入します。ウイルス対策ソフトやWindows®セキュリティセンターなどを使って、パソコンを守ってください。

まず、ウイルス対策から

インターネットは、世界中の多くの人とデータをやりとりできるとても便利なものです。ところが、その多くの人の中には、パソコンに悪影響をもたらすプログラムを作って配布する人や、詐欺を働く人もいます。インターネットにパソコンをつないで使うためには、これらへの対策が必要です。

まず、そのひとつが、ウイルス対策です。ウイルスは、メールやホームページでダウンロードしたファイルにくっついてパソコンに侵入し、ハードディスクのデータを勝手に消去するなど悪質な行為をしたり、自分自身をコピーして、送信するメールにくっついて他のパソコンに感染したりします。

Norton Internet Securityを始動させよう

このパソコンに添付されているNorton Internet Security試用版は、パソコンのハードディスクに保存したファイルにウイルスなどのソフトがないかを自動的に調べて、みつけると駆除（除去）するソフトです。

60日間は無料で使えますが、パソコンを購入した最初の状態では、まだ動いていません。設定を行ってください。



更新サービスが終わる前に購入を

新しいウイルスが出回ると、そのウイルスを発見するための情報（定義ファイル）が提供されます。Norton Internet Securityは、その定義ファイルを自動的に入手し、その情報に基づいて、新しいウイルスを駆除します。

60日間は無料で、これらの情報が更新されますが、それ以降は、更新されなくなります。その前にNorton Internet Securityを購入することをおすすめします。



【ユーザー アカウント制御】は、悪意のインストールや設定変更を防ぐ

Windows Vistaを使っていると、ソフトをインストールするときや、セキュリティに関する設定を変更するときに、[ユーザー アカウント制御]という画面が表示されます。

これは、ウィルスやスパイウェアなどの迷惑ソフトが、あなたの意志とは関係なく、勝手にあなたのパソコンにプログラムをインストールしたり、設定を変えることを防ぐための画面です。あなたが自分でソフトのインストールや設定の変更をしているのであれば、[続行]をクリックしてください。心当たりがなければ、[キャンセル]をクリックしてください。



【リスクあり】のときは【今すぐに解決】を

Norton Internet Securityの最初の設定を行った後は、まだ最新の定義ファイルに更新されていないので、[リスクあり]と表示されます。[今すぐに解決]をクリックしてください。定義ファイルが更新されます。



【今すぐに解決】をクリックする



【次へ】をクリックする

情報が更新されると【安全】と表示される

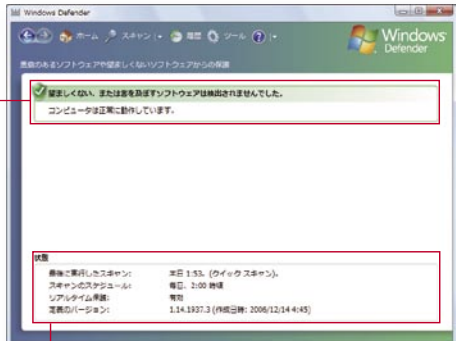


パソコンの中の情報を勝手に外部に送るスパイウェア

パソコンの中から氏名や住所などの個人情報勝手に探して外部に送信するソフトをスパイウェアといいます。気づかないうちにインストールしてしまうように仕組まれているものも多く、注意が必要です。

Norton Internet Securityにも、スパイウェアを駆除する機能があります。

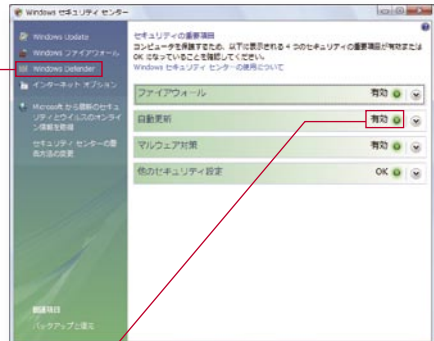
Windows Vistaには、スパイウェアなどの迷惑ソフトを探して削除するWindows Defenderが添付されています。



ハードディスクの中を調べた結果が表示される

ハードディスクの中を調べるスケジュールなどが表示される

Windowsセキュリティ センターは、Windowsのセキュリティに関する機能を集めたもの。
[スタート]→[コントロールパネル]→[セキュリティ]→[セキュリティセンター]で表示される



【自動更新】を[有効]にしておけば、Windows Defenderの情報も常に最新に更新される

日々の備え

Provision

ファイアウォールで外からの侵入を防ぐ

インターネットにパソコンをつなぐと、パソコンの中のデータをのぞかれたり、操作されたりすることがあります。このような外部からの侵入を防ぐために、出入りするデータをチェックして、問題があるデータを遮断するソフトやハードを使います。このようなソフトやハードをファイアウォール（防火壁）といいます。

ネットとパソコンを分離する

インターネットは、さまざまな人が仕事や趣味などいろいろな目的で使っています。そこには、インターネットを悪用して、他人のパソコンから個人データを盗み出したり、データを改ざんしたり削除しようとする人もいます。

そこで、パソコンや家庭内ネットワーク、社内ネットワークと外部のインターネットをつなぐ出入り口に「ファイアウォール」（防火壁）と呼ばれるソフトやハードを置いて、やりとりされるデータをチェックして、不正なアクセスを遮断します。

ただし、複数のファイアウォールソフトを使うと、競合して正常に作動しないことがあるので注意してく

ださい。

また、ファイアウォールは決められたルールにしたがって不必要なアクセスを拒否するだけなので、そのルールで許可されたアクセスによる攻撃は防げません。電子メールに添付されて送られてくるウイルスや、ホームページからダウンロードする迷惑ソフトもファイアウォールで防げません。ウイルスなどの対策は別に必要です。

Windows Vista自体に、外部からの侵入を許してしまうなどの問題点が発見されたときは、インターネットを利用して、自動的に修正されます。Windows セキュリティ センターの「自動更新」は「有効」にしておいてください。（パソコンを購入した状態では、「有効」になっています）

セキュリティのチェックはコントロールパネルから

- Windowsのセキュリティについての設定は、[スタート]→[コントロールパネル]→[セキュリティ]から[セキュリティセンター]を開いて確認します。
- 他に、こどもが有害サイトにアクセスできないように設定する「保護者による制限」などもあります。



● セキュリティの設定は、[セキュリティセンター]で確認する

● こどもが有害サイトへアクセスできないようにしたいときは、[保護者による制限]で設定する

Norton Internet Securityの ファイアウォールの設定

Norton Internet Securityにもファイアウォールの機能があります。

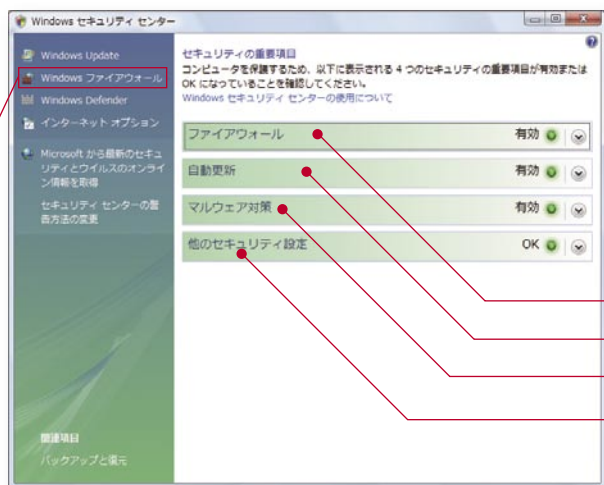


Norton Internet Securityのファイアウォールを使うときは、[設定]をクリックして[ファイアウォール]をクリックし、[オンにする]をクリックする。使わないときは、同じように操作して[オフにする]をクリックする

Windowsの ファイアウォールの設定

Windows Vistaのファイアウォール機能が有効になっているかどうかは、Windowsセキュリティセンターで確認します。

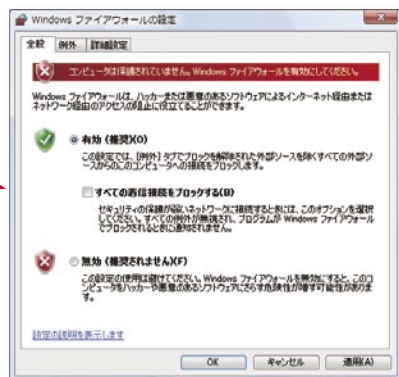
[スタート]→[コントロールパネル]→[セキュリティ]→[セキュリティセンター]で表示されます。



- ファイアウォール
- Windowsのプログラムなどの自動更新
- マルウェア(ウイルスやスパイウェアなどの迷惑ソフト)対策
- 他のセキュリティ設定(インターネットのセキュリティに関する設定が安全な設定になっているかどうか)



ファイアウォールの設定を変えるときは、[設定の変更]をクリックする



Windowsのファイアウォールを使うときは[有効]、使わないときは[無効]をクリックして、[OK]をクリックする

日々の備え

Provision

個人情報には気をつけて

ネットの詐欺は、ウイルス対策やファイアウォールだけでは防げません。あなた自身が気をつけなければいけません。だまされないよう、かしこく使しましょう。銀行やクレジットカードの番号、パスワード、それからあなたのメールアドレスや住所や電話番号は知られていきます。

ネットに横行する詐欺

たとえば、銀行から「セキュリティ強化のためにパスワードを変更してほしい」というメールが届いたら、あなたはどうしますか？ あわてて、そのメールにあったサイトでパスワードを変えたりしたら思うつぼです。それは、あなたのパスワードを盗むために作られたニセモノのメールとサイトかもしれません。ニセモノのサイトに入力した、あなたの口座番号とパスワードを使ってあなたの預金はごっそり引き出されてしまうかもしれません。

これは、ニセのサイトで銀行の口座番号やパスワード、クレジットカード番号などを搾取するフィッシング詐欺

欺の一例です。ネットの詐欺には、他にもいろいろなパターンがあります。

個人情報の入力には慎重に

いずれも、住所・氏名・メールアドレス・クレジットカード番号や銀行の口座番号とパスワードなどの個人情報を収集し、迷惑メールの送信先に使われ、フィッシング詐欺や架空請求（振り込め詐欺の一種。根拠のない請求をして、金品をだまし取る詐欺）、ワンクリック詐欺に利用されます。

ウェブサイトやメールには、安易に個人情報を書き込まないようにしなければなりません。書き込む必要があるときも、本物かどうかを慎重に確認する必要があります。

サイトやメールに個人情報を書くときは慎重に

ネットの掲示板やブログなどは多くの人が見るものですから、みだりに自分の住所や電話を書き込んだり、顔写真を掲載したりするとわぬトラブルに巻き込まれることがあります。クレジットカードや銀行口座の情報はさらに慎重に取り扱ってください。また、公共の場ですから、マナーも大切です。



ネットの掲示板やブログは公共の場。多くの人が見ている

迷惑メールには返信しない クリックしない

知らない人からのメールには、不用意に返信しないでください。機械的にアドレスを作って送信している迷惑メールの場合は、返信することでメールアドレスが実在することを知らせることになります。メールの中にホームページを開くためのリンクがある場合も危険です。開いたホームページで個人情報を盗み取られることがあります。そのメールが今後送られてこないようにする手続きと見せかけて個人情報を入力させる手口もあります。



知らない相手からのメールの指示や誘いにはおろさないように。個人情報はねらわれている

ウェブサイトには ニセモノもある

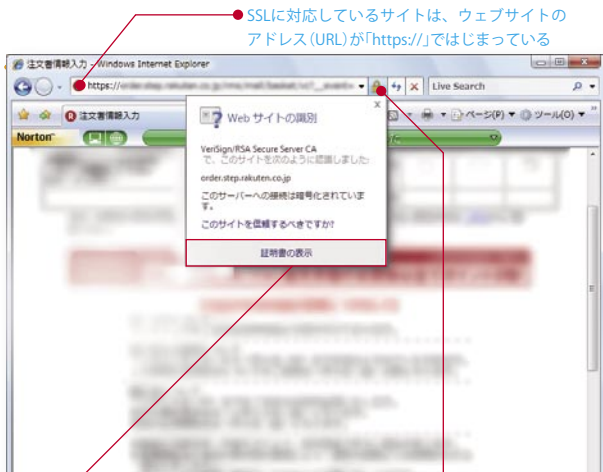
ネットショッピングやネットオークション、ネットバンキングはとても便利なモノですが、利用するためにはクレジットカード番号や銀行口座のパスワードを入力しなければなりません。もし、ニセモノのサイトでその情報を入力してしまうと、勝手に高額の買い物やされたり、口座から現金をおろされたりしかねません。



ネットの買い物や銀行は、サイトが本物かどうかを確認してから

本物かどうかを証明し 通信を暗号化するSSL

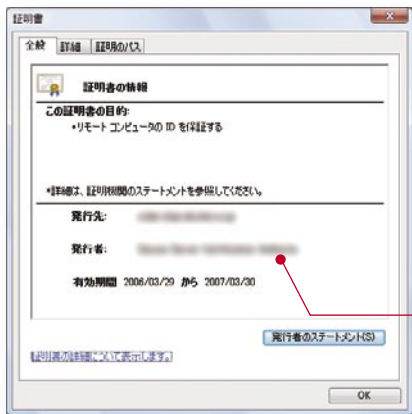
SSL (Secure Socket Layer) という仕組みが、ウェブサイトの信頼性の目安になります。SSLに対応しているウェブサイトは、ウェブサイトのアドレス (URL) が「https://」ではじまっていて、そのアドレス表示欄の右に🔒が表示されます。このサイトは情報をやりとりするときに暗号化するので、通信の途中で情報を盗み見される危険が減ります。また、🔒をクリックすると、そのサイトが本物であるかどうかを確認できます。



SSLに対応しているサイトは、ウェブサイトのアドレス (URL) が「https://」ではじまっている



SSLに対応しているサイトには、🔒が表示される。クリックすると [Webサイトの識別] が表示され、[証明書の表示] をクリックすると、このサイトが本物であることの証明書が表示される



証明書の発行者が表示される

& Business

■いまや、パソコンは仕事や学習に欠かせないものになっています。企画書を作るときも、レポートをまとめるときも、連絡事項を伝えるときも、パソコンが使われます。

■仕事や勉強以外の暮らしにパソコンを役立てている人も多いでしょう。年賀状やカードを作るときにもパソコンは役に立ちます。

■作るものに合ったソフトを使えば、企画書や年賀状も効率よく作れます。また、それぞれのソフトもいろんな使い方があるので、メニューやヘルプを見回して上手な使い方を探してください。

■メールやホームページ、ネット検索も仕事や勉強、生活にいろいろと役に立ちますが、これらについてはインターネットの章をご覧ください。

生活と仕事

Life

オリジナルの年賀状やカードを作ろう
使いこなそう、ワープロと表計算
どのパソコンでも開けるPDFファイル

【日々の備え】

【生活と仕事】

【写真】

【映像】

【音楽】

【インターネット】

【LANと周辺機器】

【トラブル】

オリジナルの年賀状やカードを作ろう

年賀状や暑中見舞い、お誕生日祝いやお礼状。はがきを出すことはけっこうあるけれど、わざわざ文面を考えたり、カードを買ってくるのがめんどろで、ついつい敬遠してしまっ。そんなとき、はがきが手元があれば、気軽に作れるのがパソコンのグリーンティングカードです。

意外に簡単！ はがき作成ソフト

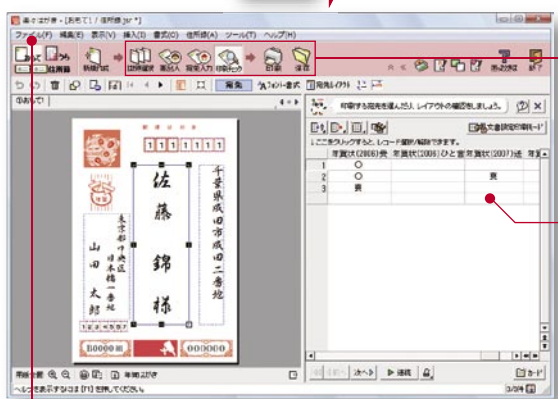
年に一度の一大イベント、年賀状。お店で頼むとけっこう費用がかかります。せっかくのパソコンです。自分で印刷してしまいましょう。ついでに、時間のかかる宛名書きもパソコンにまかせましょう。住所録は、一度入力しておけば、あとは毎年使えて便利。出した、来た、喪中、といった履歴の管理もできます。

文面を作るのも、はがき印刷ソフトの中にいろいろなパターンが準備されているので、選んでいくだけ。もちろん自分で使いたいイラストや写真があれば、簡単に組み込めます。ジャストホームEXの「楽々はがき」をやってみましょう。

楽々はがきで年賀状を作る

ジャストホームEXで「はがき」をクリックすると「楽々はがき」の画面が表示されます。文面（うら）、宛名面（おもて）、住所録の編集ができます。ジャストホームEXは、[スタート]→[すべてのプログラム]→[JUSTSYSTEMアプリケーション]→[ジャストホームEX]で表示されます。

「はがきおもて」の「はがき」をクリックする

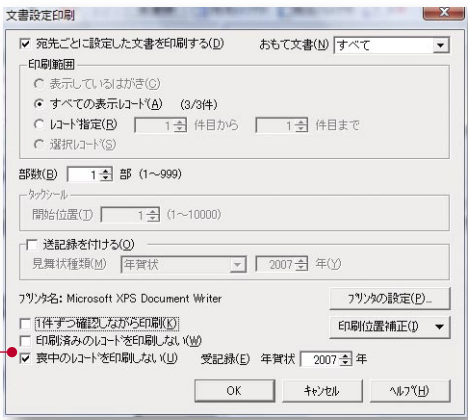


ガイドの順番に左から右へ作業を進めていくと、簡単に表書きや住所録の入力ができる

ガイドの「印刷チェック」の画面で表をスクロールすると、送受信の状況を入力できる

Outlook*など、他のソフトですでに住所録を作っているときは、[ファイル]→[住所録ファイル]→[他形式の取り込み]で取り込める

【印刷】の画面

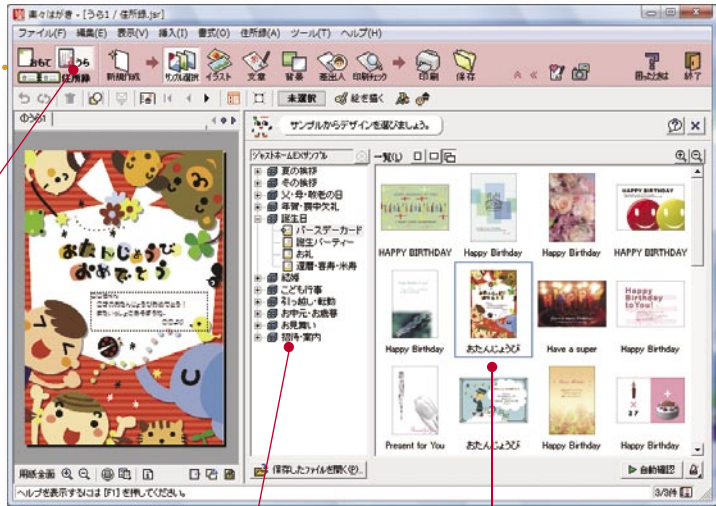


住所録で「喪」がついている宛先は印刷しない、などの印刷の条件を選ぶ

楽々はがきで作る グリーティングカード

カードは、行事や用途ごとにサンプルがたくさん用意されているので、気に入ったものを選びましょう。

[うら]をクリックする



カードの種類を選ぶ

カードのデザインを選ぶ

自分で撮った写真に 入れ替える

カードやはがきのあいさつ文や写真、イラストなどは、入れ替えることができます。イラストや写真、飾り文字などの素材を無料で提供するサイトもあります。必ず、サイト運営者の注意を読んで、指示にしたがって使しましょう。

写真やイラストを入れ替える

[イラスト]をクリックする

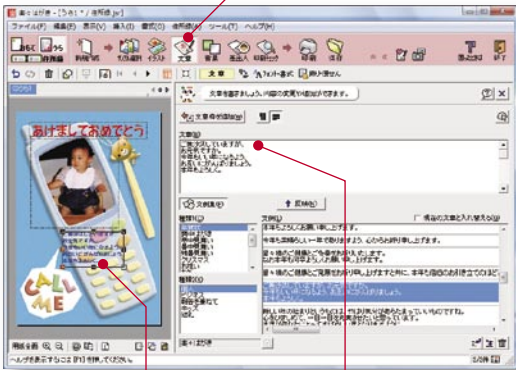
入れ替えたい写真をクリックして枠を実線しておく



入れ替える写真をクリックする

文章を入れ替える

[文章]をクリックする



入れ替えたい文章をクリックする。枠の位置や大きさはドラッグ&ドロップで変えられる

文章を入力する。文例から選ぶこともできる

自分で撮った写真に入れ替わる



使いこなそう、ワープロと表計算

いつも同じような手書きの書類を作り直さなくても、ワープロを使えば、日付や宛名をちよつと変えて印刷するだけ。電卓片手にひとつずつ計算して書き込む表も、表計算ソフトを使えば、数値を入力するだけであとはかつてに計算してくれる。ワープロや表計算は、あなたの手間といらいらを減らすための道具です。

文章中心の書類にはワープロ

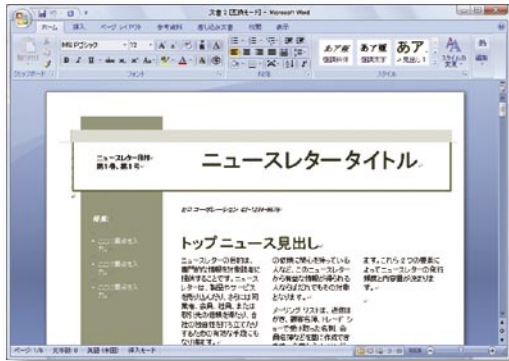
ジャストホームEXで[ワープロ]をクリックすると[一太郎SE]の画面が表示されます。できることは、上段のツールバーに絵で表示されています。クリックして選んでください。

[ワープロ]をクリックする



クリックするだけで、文字のサイズや行の間隔を変えたり、中央にそろえたりできる

[文字飾り]をクリックすると表示される補助の画面



Microsoft® Office® Word 2007
Microsoft Officeには、Wordというワープロソフトが入っている。豊富なテンプレート（ひな形）や差し込み印刷、校閲などの高度な機能が用意されている

どう使う、ワープロに表計算

パソコンで仕事するとき、まず使うソフトがワープロと表計算。

文字中心の書類を作るときはワープロ、表形式の書類を作るときは表計算を使います。

でも、それだけじゃありません。ワープロは、自由に絵や写真を配置できるので、ファックス送信票やワンポイントを入れた便箋を作るなど、発想しだいでいろいろなのが作れます。表計算は、罫線を引くのが得意なので、住所録やスケジュール表、工夫しだいでトリーナメント表など、計算がないものにも力を発揮します。ジャストホームEXでワープロや表計算を体感してみましょう。

表形式の書類は 表計算ソフトで

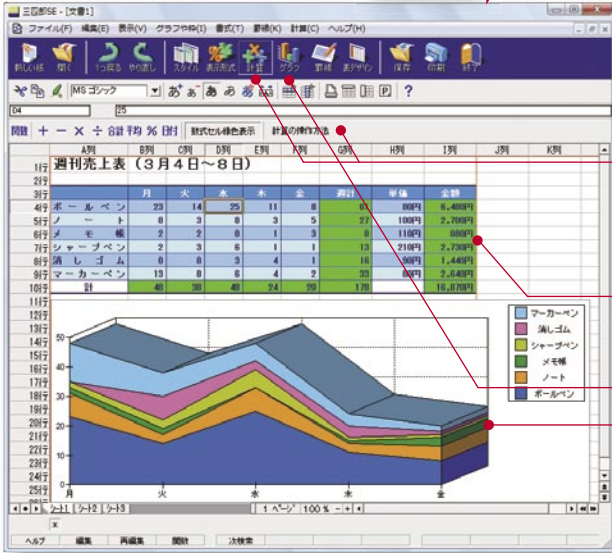
ジャストホームEXで「表計算」をクリックすると「三四郎SE」の画面が表示されます。一太郎と同じように上段のツールバーで操作を選びます。

「表計算」をクリックする



ジャストホームEXの画面

[スタート] → [すべてのプログラム] → [JUSTSYSTEMアプリケーション] → [ジャストホームEX] で表示される

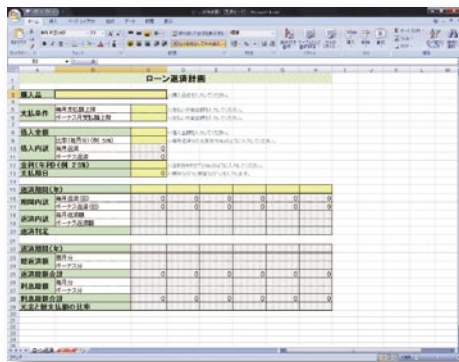


合計や平均などの関数式は、「計算」の補助画面から選ぶ

合計の欄は、左側の数値をもとに計算される。左側の数値を変えると自動的に再計算される

グラフにする範囲を指定して「グラフ」を選ぶと、グラフができる

グラフは、元の数値を変えると自動的に修正される



Microsoft Office Excel 2007

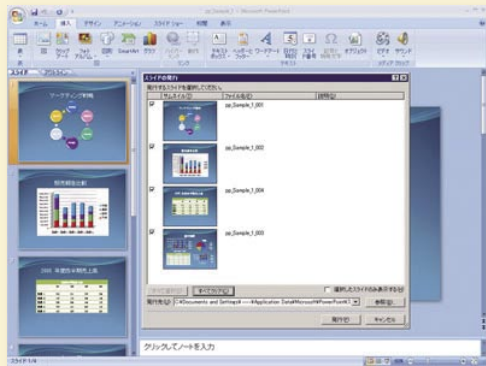
Microsoft Officeには、「Excel」という表計算ソフトが入っている。様々なテンプレートや、複雑な計算、マクロなどを使う

プレゼン資料を作る

Microsoft Officeには、「PowerPoint®」というプレゼンテーション用の資料を作るソフトもあります。スライド形式のシートに、文章やイラスト、表、写真を自由に配置できます。アニメやビデオも組み込めます。

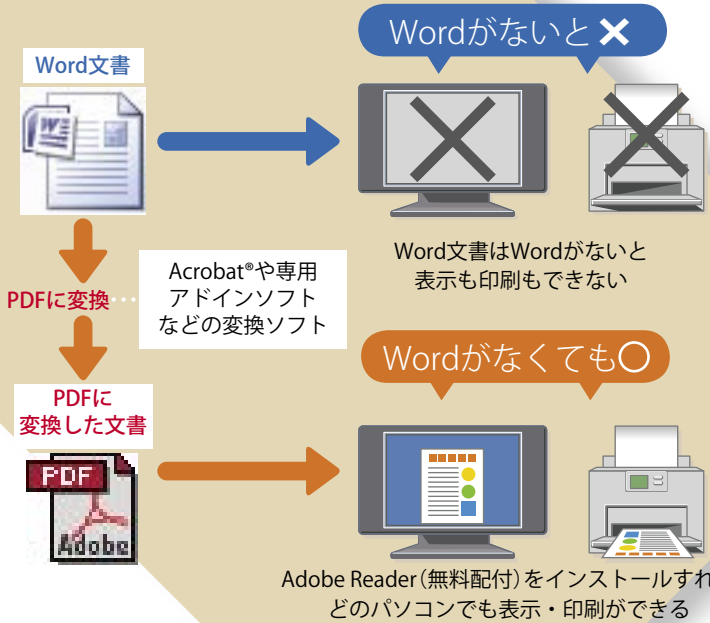
あらかじめ用意されているスライド見本からパターンを選んで加工すれば、視覚に訴えるプレゼン資料や企画書も簡単に作れます。

Microsoft Officeのプレゼンテーションソフト「PowerPoint」で、スライドのパターンを選ぶ画面



どのパソコンでも開けるPDFファイル

ネットからファイルダウンロードしようとしたら、PDF形式と書いてあった。友人に、同窓会の資料は、PDFにしてメールに添付して送るよと言われたけれど、いったい何のことだろうか？ そんな経験はありませんか？ PDFは、どんなパソコンでも見られる便利なファイル形式です。



開けるファイル、開けないファイル

パソコンで作った文書は、一般にその文書を作ったソフトがないと開けません。PDFファイルにしておけば、Adobe Readerという無料配布ソフトや、自在眼などのソフトで見ることができます。

配布に便利なPDF

違うソフトで作った文書でも、PDFという形式のファイルにすれば、その文書を作ったソフトがなくても、アドビリーダー(Adobe® Reader®)という無料配布されているソフト(このパソコンにも入っています)でみんな同じように見たり印刷したりすることができます。

PDFには、ワープロや表計算ソフトなどの文書の文字や写真、図形、罫線や背景の色なども全部入れることができます。

パソコンの文字は、ソフトとは別々の、フォントという文字の形をデータにしたものを使って表示されます。したがって、その文書を作ったとき

に文字の形を指定していても、そのフォントが入っていないパソコンで開くと、その文字が表示されなかったり、他の文字の形に置きかえられて表示されます。フォントが変わると、文字の幅が変わったり、ぜんぜん違う文字になって、読めなくなることがあります。

PDFには、フォントを埋め込めるので、そういう心配ありません。どのパソコンでも同じように表示されます。容量が小さいPDFなら、メールにも気軽に添付して送れます。

PDFを作るためには、専用のソフトが必要です。WordやExcelなどのOffice製品では、無料アドインソフトをダウンロードできます。

ここでは、PDFを見るためのAdobe Readerの使い方を見てみましょう。

PDF文書を開く

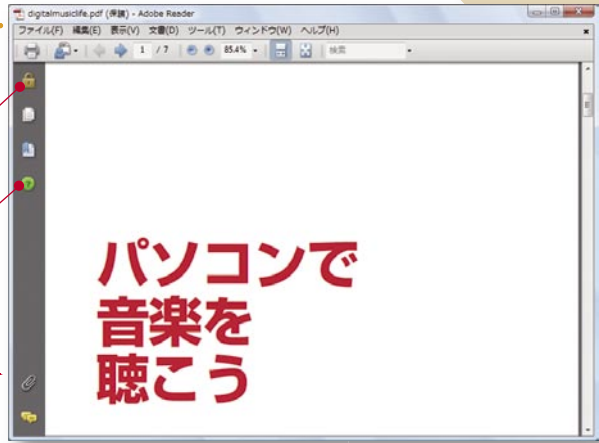
PDFファイルのアイコンやファイル名をダブルクリックすると、Adobe Readerの画面が表示されて、PDF文書が開きます。

内容を改変できない設定になっているファイルには、鍵のマークが付いている

操作がわからないときはヘルプを



ダブルクリックする

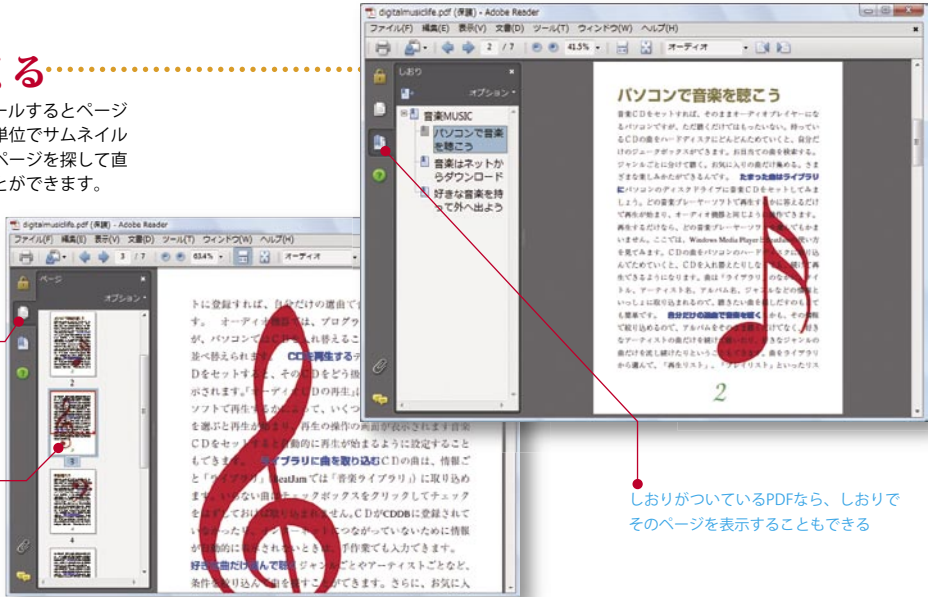


PDF文書のページをめくる

PDF文書は、上下にスクロールするとページもめくられますが、ページ単位でサムネイル表示もできるので、見たいページを探して直接そのページを表示することができます。

クリックするとサムネイルが表示される

今、画面の右側に表示されている部分のガイド



しおりがついているPDFなら、しおりでそのページを表示することもできる

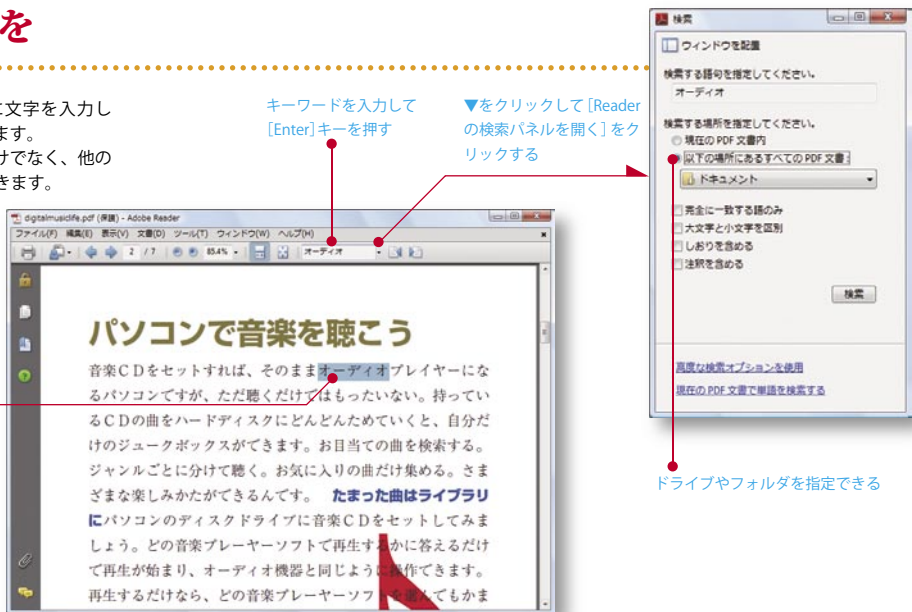
読みたい場所をすばやく探す

ツールバーの検索ボックスに文字を入力して、全文検索することができます。検索パネルでは、その文書だけでなく、他の複数のPDF文書からも検索できます。

キーワードを入力して [Enter] キーを押す

▼をクリックして [Reader] の検索パネルを開く ▼をクリックする

検索されたキーワードは色つきで表示される。次を検索するときは [Enter] キーを押す



ドライブやフォルダを指定できる

o g r a p h

写真

写真はパソコンで整理しよう
より魅力的に生まれ変わる写真
CD-Rで写真をプレゼント

【日々の備え】

【生活と仕事】

【写真】

【映像】

【音楽】

【インターネット】

【LANと周辺機器】

【トラブル】

Phot

■デジタルカメラや携帯電話で撮った写真は、メモリがいっぱいになったときは写真店でCDにしてもらったこともできませんが、パソコンにコピーすれば、自分でCDに保存できるし、いつでも画面で写真を楽しんだり、思いついたときに好きな形で印刷できます。

■パソコンを使うと、写真を自由に加工することもできます。たとえば、暗く写ってしまった顔の表情が見えない写真を明るくしたり、照明のせいで奇妙な色になった写真を修正したり。

■また、メールで友だちに送ったり、ホームページに載せたりすることもできます。

Photograph

写真

写真はパソコンで整理しよう

デジタルカメラで撮った写真がメモリカードにたまっているけれど、どうしよう……。そんなときは、写真をパソコンに取り込めば、メモリカードの内容は全部消去して、またくり返し使えます。パソコンでは、たくさん枚数の写真を、コンパクトに機能的に整理したり、画面いっぱいに表示して楽しめます。

さまざまな見方で写真を楽しむ

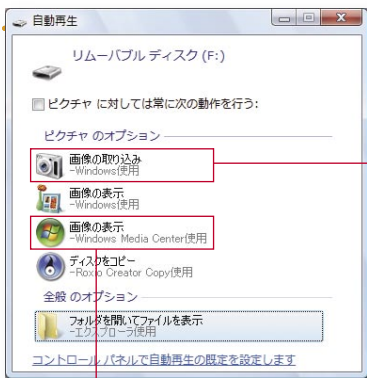
デジタルカメラから直接印刷できるプリンタもあるし、写真店のプリントサービスも利用できます。

でも、せっかく撮った写真です。パソコンに取り込んでおけば、いつでも画面で見られます。しかも、大量の写真をもとめて整理できます。

パソコンでは、写真一枚ごとに、「タグ」というキーワードを付けられるので、探するのが簡単。複数のタグをつけることもできます。たとえば「花」というタグを選ぶと、花とタグのついた写真を全部表示してくれます。アルバムのページをめくるように自動的に画面の写真が移り変わる「スライドショー」を楽しむこともできます。

写真を取り込む

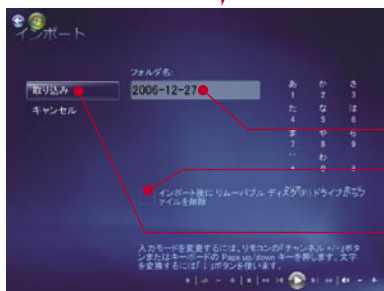
USBケーブルでデジタルカメラを接続するか、カメラから取り出したメモリカードをパソコンのカードスロットに差しこむと[自動再生]の画面が表示されます。



「Windows Media® Center®」を使って取り込むときは、[画像の表示 - Windows Media Center使用]をクリックします。[画像ライブラリ]で、取り込みたい画像のフォルダが表示されます。



[画像ライブラリ]で、取り込みたい画像の入っているフォルダをクリックして選ぶ。表示された画面([リムーバブルディスク]など)でリモコンの①ボタンを押す(右クリックする)とメニューが表示されるので[取り込み]を選ぶ

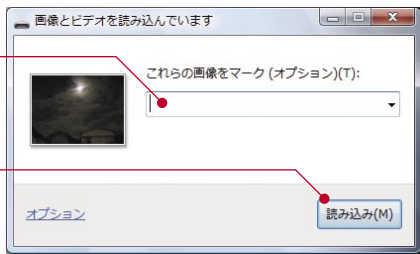


- 取り込む写真のフォルダ名を入力する
- チェックを入れると、パソコンに取り込んだ後、もとのメモリカードのデータを消去する
- [取り込み]をクリックすると、[ピクチャ]フォルダに取り込む

Windowsの機能を使って取り込むときは、[画像の取り込み - Windows使用]を選びます。取り込んだ後は、[Windowsフォトギャラリー]の画面になります。

取り込んだ写真全部にタグとして付く言葉を入力する。タグはあとから写真単位で付けられるので、写真に共通する要素がないときは、省略してもいい

[読み込み]をクリックすると、[ピクチャ]フォルダに取り込む。取り込みが終わると、[Windowsフォトギャラリー]の画面が表示される



Windows Media Centerで写真を探す、見る

「Windows Media Center」では、フォルダ（取り込んだ単位）、タグ、撮影日ごとに写真を探すことができます。
 たとえば[タグ]では、タグごとに写真を集めるので、見たいタグを選ばると、そのタグのついた写真が全部表示されます。
 ひとつの写真を選んでダブルクリックすれば画面いっぱいに見ることができ、[スライドショー]をクリックすれば写真を順番に表示していきます。



[フォルダ][タグ][撮影日]を選ばると、写真を表示する単位が変わる

写真をダブルクリックすると全画面表示される



前の写真や次の写真を見るなどの操作をするボタン。マウスを移動すると表示される

表示する単位を選ぶ



[スライドショー]を選ばるとその単位の写真を順番に表示する

リモコンの①ボタンを押す(右クリックする)と表示されるメニューから[設定]の[ピクチャ]で表示される画面で、スライドショーの設定を変更できる



Windowsフォトギャラリーで写真を探す、見る

「Windowsフォトギャラリー」では、写真のタグを追加したり変更できるほか、写真に評価をつけたり、その評価で探すことができます。

表示する単位を選ぶ



タグや評価を追加したり変更することができる

より魅力的に生まれ変わる写真

いい表情が撮れたのに、色がはっきりしない。きれいに撮れたのに、目が赤く光っている。よくありますよね、そんなこと。パソコンなら、ワンタッチで修正できます。より魅力的な作品にするために、すこし手を加えてみませんか？

Windows Media Centerで
写真を修正する

【画像ライブラリ】で、修正したい写真を選びます。右クリックで表示されるサブメニューから【画像の詳細】を選びます。



【修正】をクリックする



修正が終わったら、【保存】をクリックする

赤目
赤目を取り除く

コントラスト
コントラストを適正に調整する

トリミング
いらない部分をカットする

枠の大きさや位置、向きを変えるボタン



【はい】で、修正した写真に入れ替える。【いいえ】で、修正を無効にし、元の写真に戻す

簡単にできる写真の修正

写真の修正というと、専門的な知識や技術が必要でしたが、今は、デジタルカメラとパソコンがタッグをくんで、誰にでも簡単にできるようになりました。「Windows Media Center」や「Windowsフォトギャラリー」でも、写真のいらない部分をカット（トリミング）したり、赤目（フラッシュが反射して目が赤く光る現象）を取り除いたり、光の具合（コントラスト）を変えたりできます。

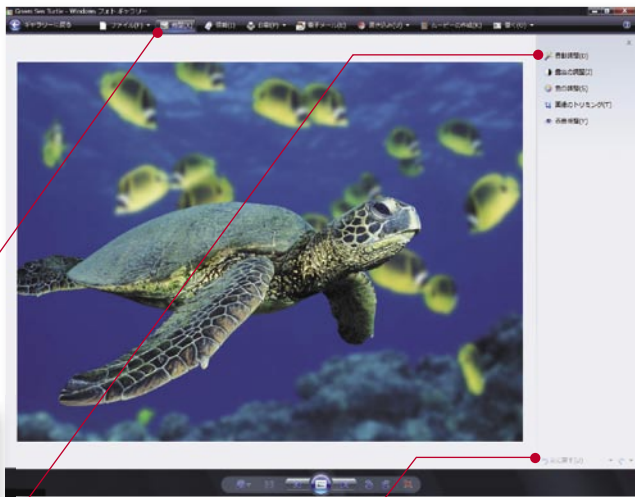
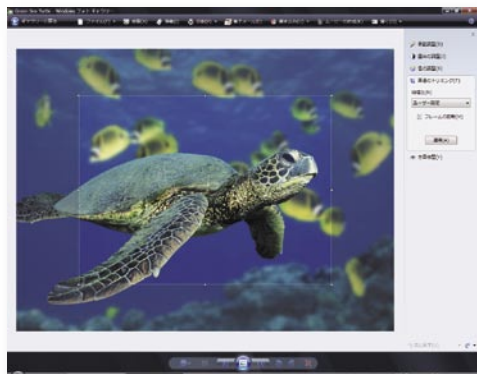
「Windowsフォトギャラリー」や「ジャストホームE Xの「写真スタジオ」では、色の調整もできます。たとえばカラー写真を白黒写真に変えることもできます。

Windowsフォトギャラリーで 写真を修正する

直したい写真を選び、[修整]をクリックすると、修正のためのメニューが表示されます。簡単に直したいときは[自動調整]を選ぶと、すべての項目を自動的に調整します。手動で調整するときは、上から順に直していくと、バランスよく修正できます。

修正をかけると、すぐに反映され、写真が変わりますが、[元に戻す]でいつでも戻すことができます。

[修整]をクリックする

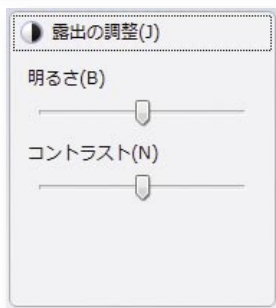


自動調整
ここを選ぶと、自動的に調整される

元に戻す
調整したあとで、元の状態に戻したいときにクリックする

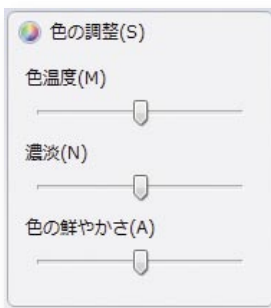
画像のトリミング

いらぬ部分をカットする。フレームを調整して、[運用]をクリックする



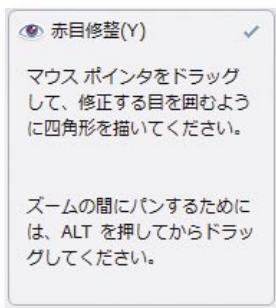
露出の調整

スライダで、[明るさ]と[コントラスト]を調整できる



色の調整

スライダで、[色温度][濃淡][色の鮮やかさ]を調整できる。[色の鮮やかさ]を左に移動すると、白黒写真になる

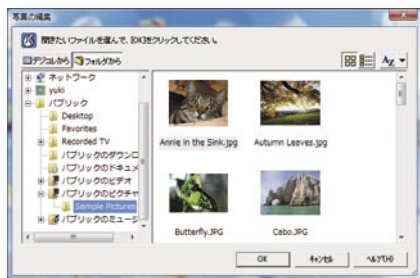


赤目修整

赤目を取り除く。赤目の出ている範囲を指定する

写真スタジオで、 スタンプや手書き文字を入れる……

ジャストホーム EXの[写真の編集]をクリックすると、[写真スタジオ]の画面が開きます。写真にらくがきしたり、フィルタをかけて楽しめます。



他のソフトで取り込んだ写真を使うときは、まず、写真のファイルを探す。どこにあるかわからないときは[…のピクチャ]のフォルダを探そう

[らくがき]タブで、[フレーム][スタンプ][手書き]を使って加工した写真



CD-Rで写真をプレゼント

旅行で撮った写真は、いっしょに旅行した人にもあげたい。少しならメールでもいいし、印刷してあげてもいいけれど、パソコンを持っている友だちなら、CD-Rであげるときっとよろこばれます。CD-Rでもらえば、かさばらないし、保存しやすいし、パソコンで加工したり、メールで送ったりもできます。

パソコンから写真を持ち出す

旅行やイベントで写真を撮りまくったのはいいんだけど、いっしょに写っている人たちにどうやってその写真を配るかは迷うところ。

かんたんなのは、メールに添付して送る。ただし、枚数が多いと送りにくい。とりあえず、焼き増しする感じで印刷してあげるのもいいでしょう。

パソコンを持っている人にあげるのなら、CD-Rに保存してプレゼントすれば、きつとよろこばれます。

場所をとらないし、もらった人が自分で加工したり、メールで知人に送ることもできるからです。

保管したり、写真店にプリントを頼むときも、CD-Rは便利です。

Windows Media Centerで写真を印刷する

画像ライブラリで、印刷したい写真を選びます。リモコンの **1** ボタンを押す(右クリックする)と表示されるメニューから[画像の詳細]を選びます。選んだ写真は、プリンタのデフォルトサイズいっぱい印刷されます。

[印刷]を選ぶ

[印刷]を選ぶ



Windowsフォトギャラリーで写真を印刷する

一度に複数の写真を、いろいろな形で印刷することができます。

印刷したい写真のグループを選ぶ。[CTRL]キーを押しながらクリックすると、複数のグループを一度に選べる

グループの中から印刷したい写真を選ぶ。[CTRL]キーを押しながらクリックすると、複数の写真を選べる。グループ名をクリックすると、すべての写真を選べる

用紙のサイズ、品質、種類を選ぶ

[印刷]をクリックする

レイアウトを選ぶ

それぞれの写真を何部ずつ印刷するか入力する

[印刷]をクリックする

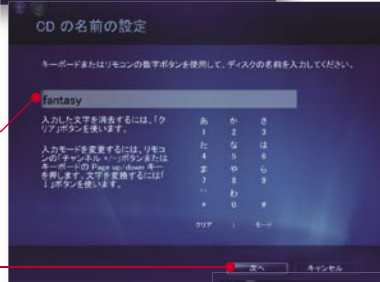


Windows Media CenterでCD-Rに写真を書き出す.....

ディスクドライブに、新しいCD-Rをセットします。画像ライブラリで、CD-Rに書き出したい写真が入っているグループを選び、リモコンの**1**ボタンを押す(右クリックする)とメニューが表示されるので、[書き込み]を選びます。



[書き込み]を選び、[ディスク形式の選択]画面で[次へ]を選ぶ



ディスクの名前を入力する

[次へ]を選ぶ



いらない写真は、選んでチェックをはずす

[CDの書き込み]を選んで、[はい]を選ぶ

書き込みができるCDディスク

CDの種類	容量	書き換えはできないが、容量いっぱいになるまで追記(追加書き込み)ができる。
CD-R	650MB または 700MB	書き換えはできないが、容量いっぱいになるまで追記(追加書き込み)ができる。
CD-RW	700MB	書き換えができる。

DVD ディスク→ 44 ページ

WindowsフォトギャラリーでCD-Rに写真を書き出す.....

ディスクドライブに、新しいCD-Rをセットし、書き出したいグループを選びます。一度に複数のグループをCD-Rに書き出すことができます。

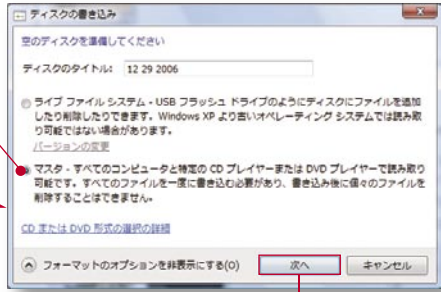
[マスタ]を選ぶ。(表示されていないときは、下の[フォーマットのオプションを表示する]をクリックする)

[書き込み]→[データディスク]をクリックする

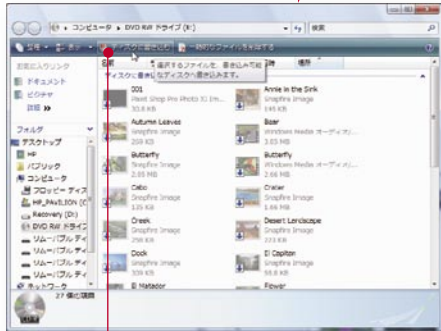


書き出したい写真のグループを選ぶ。[CTRL]キーを押しながらクリックすると、複数のグループを一度に選ぶ

グループの中から書き出したい写真を選ぶ。グループ名をクリックすると、すべての写真を選ぶ



[次へ]をクリックする



[ディスクに書き込む]をクリックする

■DVDは、パソコンでかんたんに見ることができます。スピーカに凝ればホームシアターを楽しめます。

■テレビ機能付きのパソコンであれば、テレビを見るだけではなく、録画もできます。電子番組表(インターネット)や放送の電波の一部を使って配布される番組情報を使えば、録画予約もかんたんです。

■映像の編集もパソコンの得意分野です。映像の一部を削ったり、つなぎ合わせたり、音楽をかぶせたり、ちょっとした映画監督気分映像を加工できます。

■書き込みができるDVDドライブがあれば、できあがった映像は、DVDに保存できます。

■ただし、テレビ放送などの著作物を録画した映像や音声は、権利者に許可された場合を除き、個人で楽しむ以外の使い方はできません。また、テレビ放送やケーブルテレビなどの番組は、コピー制御によって録画や複製(DVDへの保存など)の回数に制限がある場合があります。

i m a g e

映像

パソコンをDVDシアターに
テレビを見る、録画する (Windows Media Center)
テレビを見る、録画する (INFO.TV Plus)
録画予約は番組ガイドから (Windows Media Center)
録画予約は番組表から (INFO.TV Plus)
監督気分で映像を編集する
映像はDVDに保存しよう

映像 image

パソコンをDVDシアターに

自分の部屋のパソコンで、勉強の合間にDVDを見てちょっと息抜き。リビングのパソコンは、スピーカーをつないで、じっくりDVDを鑑賞するシアターに。パソコンでは、DVDを手軽に見ることもじっくり見ることもできるのです。

DVDをセットすればプレーヤに

写真の整理や補正にもワープロにも表計算にも使えるパソコンですが、DVDソフトをセットするとDVDプレーヤにもなります。

Windows Vista Home Premiumなら、Windows Media Centerをリモコンを使ってDVDソフトを鑑賞できます。Windows Media Centerは、テレビ、ビデオ、写真、音楽などを見たり、整理したり、CDやDVDに書き出したりするソフトです。

Windows Vista Home Basicを使っている場合は、DVDPlayやDVDソフトを見ることできません。

DVDPlayは、DVDソフトを鑑賞するためのソフトです。

DVDソフトをパソコンにセットする

DVDソフトをパソコンにセットすると、この画面が表示されます。この画面で、DVDをどう扱うかを選びます。Windows Media Centerを起動してからDVDソフトをセットすれば、この画面は表示されず、すぐにDVDソフトが再生されます。

ここにチェックを付けておくと、次からは、DVDソフトをセットしても、この画面は表示されず、選んだソフトで再生されるようになる



Windows Media Playerで見たときは、[Windows Media Player使用]をクリックする

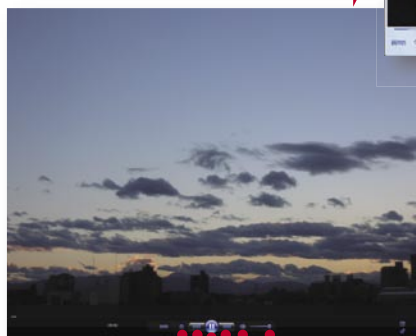
Windows Media Centerで見たときは、[Windows Media Center使用]をクリックする

DVDソフトをパソコンにセットすると、この画面が表示される

Windows Media PlayerでDVDを見る

Windows Media Playerは、Windows Vistaに付属するソフトです。ビデオを見たり、音楽を聴いたり、CDやDVDに書き出したりすることができます。

全画面表示



- 停止
- 前のチャプタへ
- 一時停止/再生
- 音量を調節する
- 音を消す
- 次のチャプタへ



- 音量を調節する
- 音を消す
- 次のチャプタへ
- 一時停止/再生
- 前のチャプタへ
- 停止

[DVD]をクリックすると、字幕(キャプション)などの設定ができる



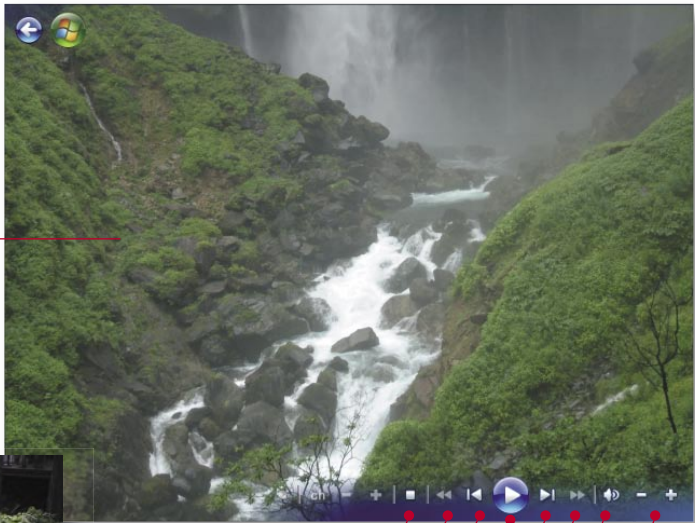


Windows Media CenterでDVDを見る

Windows Media Centerは、Windows Vistaに付属するソフトです。音楽や映像を視聴するときに使います。早送りや巻き戻し、ディスクの取り出しなどをリモコンで操作できます。



(マウスを右クリックする)



- 画面サイズを変える
- 映画の説明を表示する
- DVDのメニューを表示する
- ディスクを取り出す
- 停止
- 巻き戻し
- 前のチャプタへ
- 一時停止/再生
- 次のチャプタへ
- 早送り
- 音を消す
- 音量を調節する

リモコンの使い方

リモコンで、Windows Media Centerの操作ができます。

DVDを見る

画面サイズを変える

メニューを表示する
(マウスでは右クリック)

音量を調節する

Windows Media Centerの起動

チャンネルを切り換える

音を消す

巻き戻し

ディスクを取り出す

再生

一時停止

前のチャプタへ

早送り

停止する

次のチャプタへ

Windows Vista Home Premium リモコン

映像

テレビを見る、録画する (Windows Media Center)

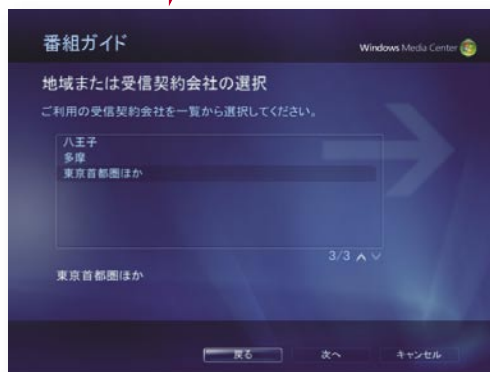
テレビ機能がついたパソコンにアンテナをつなげば、パソコンがテレビになります。パソコンのハードディスクを使って録画もできます。

▼Windows Vista Home Basicを使っている方は、36ページをご覧ください。

チャンネルを設定する

テレビを見たり録画したりするためには、まず、チャンネルの設定が必要です。最初にテレビを見るときに、[テレビ・映画]の[テレビのセットアップ]で、画面の指示にしたがってチャンネルの設定をしてください。

一度設定すると、[テレビ・映画]の[テレビのセットアップ]は表示されなくなるので、あとで設定を変えたいときは、[タスク]の[設定]で[テレビ]を選んでください。



テレビを見る

放送されているテレビ番組を見てみましょう。リモコンでチャンネルを選ぶだけなので、操作は普通のテレビと同じです。普通のテレビと違うのは、一時停止ができることと、録画中は、録画分をさかのぼって見られることです。



- チャンネルを切り替える
- 一時停止する
- 巻き戻し
- 後戻り
- 一時停止する
- 再生を再開する
- 音量を調節する
- 音を消す
- 早送り
- 前へスキップ

テレビの操作は、リモコンでもマウスでもできます。パソコンを机の上ではなく、ゆったり見られる場所に置けば、DVD/HDレコーダー付きのテレビのように使えます。録画も、ハードディスクを使うので、たっぷり録画できます。

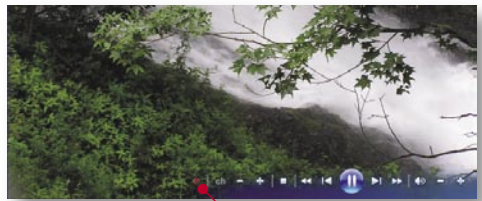
テレビをつけてみよう

Windows Media Centerを使ってテレビを見てみましょう。アンテナをパソコンにつなぐで、チャンネルの設定をすれば、テレビを見ることが出来ます。

チャンネルは、あなたの地域に合わせて設定してください。最初に一回だけ必要な設定です。あとで設定を変えることもできます。

テレビを録画する

テレビ番組の録画は●[録画] ボタンを押すだけです。停止は■[停止] ボタン。録画中は、録画分をさかのぼって見ることもできます。



●録画をはじめる/終わる



録画を見る

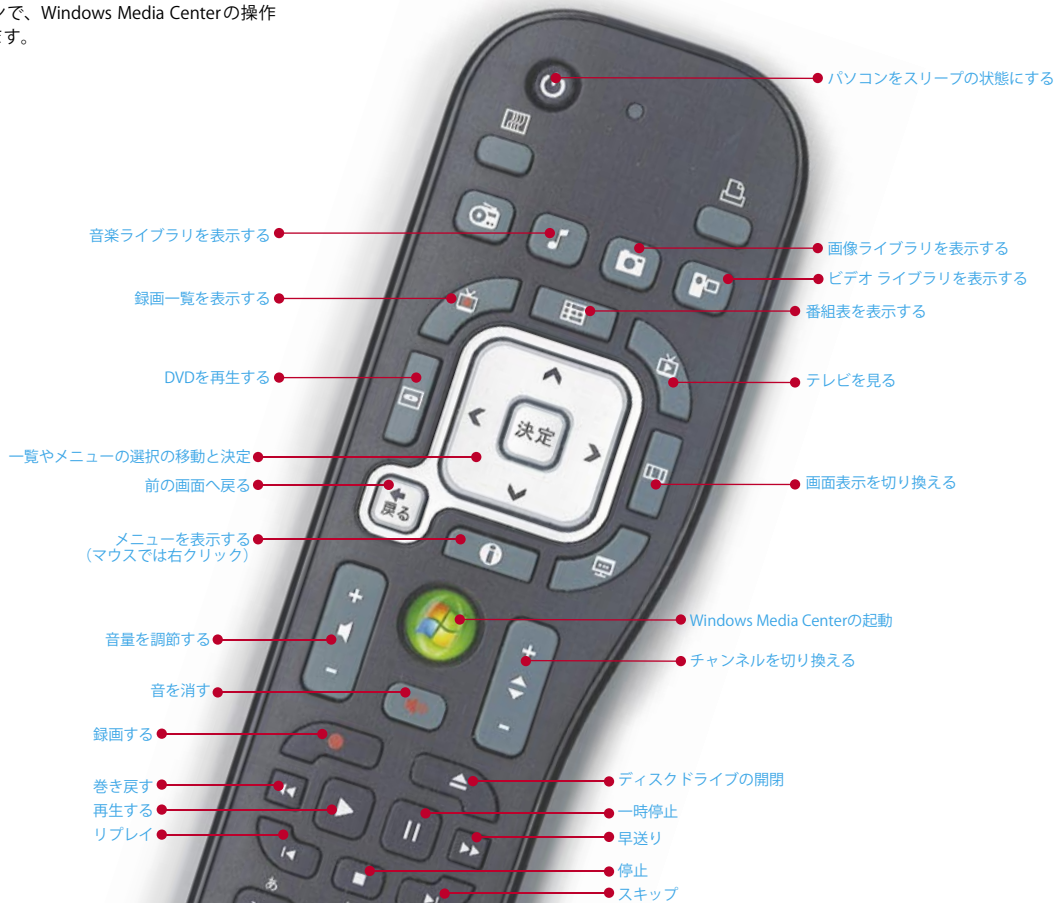
録画した番組を見たいときは、リモコンの●ボタンを押すか、[テレビ・映画]の[テレビ録画]を選びます。一覧で録画を選べると、録画が再生されます。



●録画日別やタイトル順に表示できる

リモコンの使い方

リモコンで、Windows Media Centerの操作ができます。



- パソコンをスリープの状態にする
- 音楽ライブラリを表示する
- 画像ライブラリを表示する
- 録画一覧を表示する
- ビデオライブラリを表示する
- 番組表を表示する
- DVDを再生する
- テレビを見る
- 一覧やメニューの選択の移動と決定
- 前の画面へ戻る
- 画面表示を切り換える
- メニューを表示する (マウスでは右クリック)
- 音量を調節する
- Windows Media Centerの起動
- 音を消す
- チャンネルを切り換える
- 録画する
- ディスクドライブの開閉
- 巻き戻す
- 一時停止
- 再生する
- 早送り
- リプレイ
- 停止
- スキップ

Windows Vista Home Premium リモコン

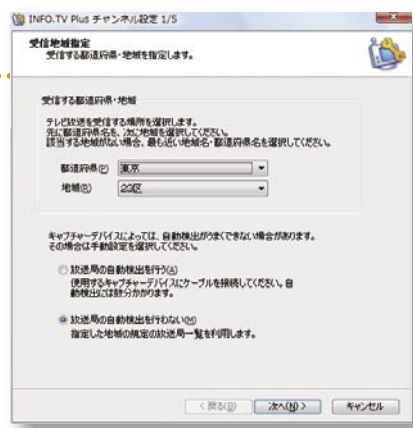
映像 image

テレビを見る、録画する(INFO.TV Plus)

テレビ機能がついたパソコンにアンテナをつなげば、パソコンがテレビになります。パソコンのハードディスクを使って録画もできます。
▼ Windows Vista Home Premium を使っている方は、34ページをご覧ください。

チャンネルを設定する

テレビを見たり録画したりするためには、まず、チャンネルの設定が必要です。設定しないでINFO.TV Plusを起動すると「チャンネル設定」という画面が表示されるので、設定してください。設定を変えたいときは、INFO.TV Plusの画面で、[INFO.TV]メニューの[設定]→[チューナ設定]の順に選ぶか、[スタート]→[すべてのプログラム]→[INFO.TV]→[チャンネル設定]の順に選んでください。



テレビを見る

放送されているテレビ番組を見てみましょう。リモコンでチャンネルを選ぶだけなので、操作は普通のテレビと同じです。普通のテレビと違うのは、一時停止が可能なこと、録画中は、録画分をさかのぼって見られることです。

表示されている番組のチャンネルと放送局が表示される。クリックすると、チャンネルの一覧が表示される。一覧をクリックするとそのチャンネルに切り替わる

クリックするとひとつずつ隣のチャンネルに切り替わる

放送しているテレビ番組を見る

録画した番組を見る

番組表を見る

小さな画面でテレビを見る

ミュート(音を消す)。もう一度クリックすると音が出る

音量を上げたり、下げたりする

音声多重放送の主音声と副音声を切り替える

テレビ画面で右クリックすると、メニューが表示される

録画も、ハードディスクを使うので、たっぷり録画できます。

録画も、ハードディスクを使うので、たっぷり録画できます。

テレビをつけてみよう

INFO.TV Plusを使ってテレビを見てみましょう。

アンテナをパソコンにつないで、チャンネルの設定をすれば、テレビを見ることが出来ます。

チャンネルは、あなたの地域に合わせて設定してください。最初に一回だけ必要な設定です。あとで設定を変えることもできます。

テレビの操作は、リモコンでもマウスでもできます。パソコンを机の上ではなく、ゆったり見られる場所に置けば、DVD/HDレコーダー付きのテレビのように使えます。

「INFO.TV Plus」の使い方については、[スタート]→[すべてのプログラム]→[INFO.TV]→[ユーザーズマニュアル](PDF)をご覧ください。

テレビを録画する

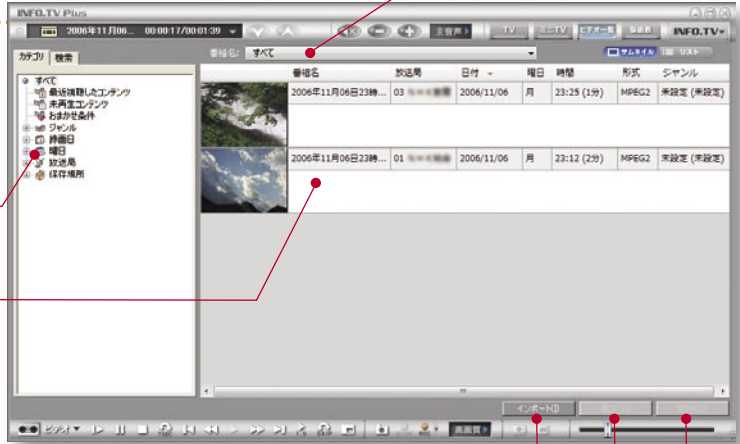
テレビ番組の録画は●[録画]ボタンを押すだけです。停止は■[録画停止]ボタン。録画中は、録画分をさかのぼって見ることもできます。



録画を終わる ● 録画をはじめめる ●

録画を見る

録画した番組を見たいときは、[ビデオ一覧]をクリックします。一覧で録画を選んで[再生]をクリックすると、録画が再生されます。



一覧に表示する録画のジャンルや録画日を選ぶ ●

ビデオ一覧。録画を選んで●[決定]ボタンを押す(ダブルクリックする)と再生される。録画を選んで右クリックすると、[再生]、[先頭から再生]、[削除]などのメニューが表示される ●

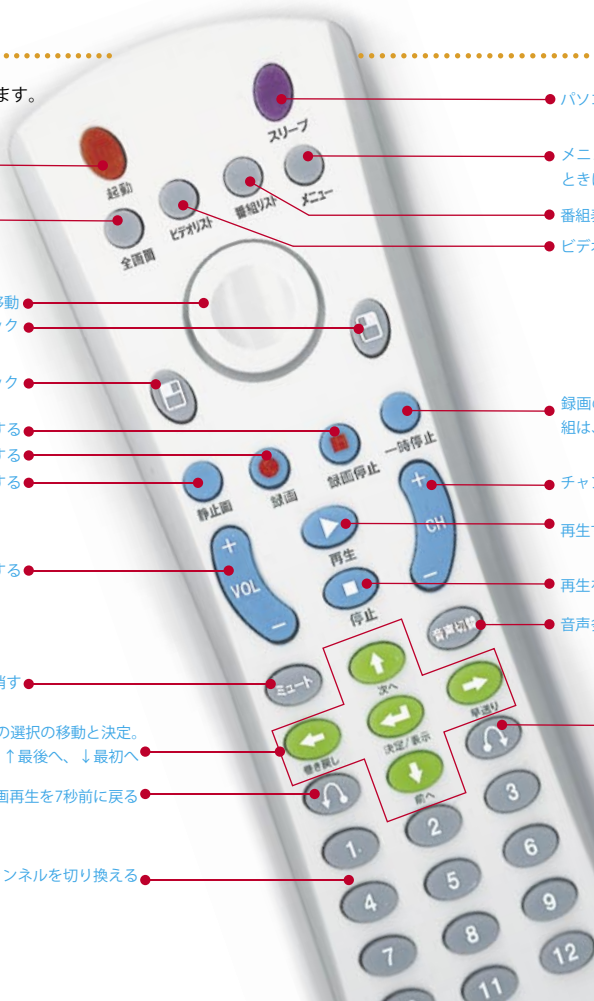
ビデオファイルを読み込む ●

一覧で選んだビデオを再生する ●

一覧で選んだビデオを削除する ●

リモコンの使い方

リモコンで、INFO.TV Plusの操作ができます。



INFO.TV Plusを起動する ●

全画面表示にする ●

マウス ポインタの移動 ●

右クリック ●

左クリック ●

録画を停止する ●

録画を開始する ●

画面を静止画にして保存する ●

音量を調節する ●

音を消す ●

一覧やメニューの選択の移動と決定。

録画再生中は、←巻き戻し、→早送り、↑最後へ、↓最初へ ●

録画再生を7秒前に戻る ●

チャンネルを切り換える ●

スリープ ●

番組リスト ●

メニュー ●

全画面 ●

ビデオリスト ●

メニュー ●

全画面 ●

ビデオリスト ●

メニュー ●

全画面 ●

ビデオリスト ●

メニュー ●

全画面 ●

ビデオリスト ●

メニュー ●

全画面 ●

ビデオリスト ●

メニュー ●

全画面 ●

ビデオリスト ●

メニュー ●

全画面 ●

ビデオリスト ●

メニュー ●

全画面 ●

ビデオリスト ●

メニュー ●

全画面 ●

ビデオリスト ●

メニュー ●

全画面 ●

パソコンをスリープの状態にする ●

メニューを表示する。全画面表示でないときは、INFO.TVメニューを表示する ●

番組表を表示する ●

ビデオ一覧を表示する ●

録画の再生を一時停止する。放送中の番組は、一時停止して録画を開始する ●

チャンネルを切り換える ●

再生する ●

再生を停止する ●

音声多重を切り換える ●

録画再生を一定時間後に進める(進める時間は、[INFO.TV] → [設定] → [オプション設定] → [操作の設定] → [CMスキップの間隔]で指定する) ●

Windows Vista Home Basicのテレビ機能用のリモコン



番組ガイドを見る

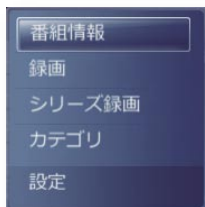
Windows Media Centerの番組表データは、インターネットから定期的に自動的に読み込まれます。

チャンネルを選んで[決定]ボタンを押すと、そのチャンネルの番組だけが表示される

番組ガイド(番組表)
インターネットからダウンロードされた番組情報が表示される

▶ 12時間後
◀ 12時間前

[ジャンル]を選んで
[決定]ボタンを押すと、
表示する番組のジャンルを選べる



① ボタン
または右クリックする
番組のくわしい情報の表示、
録画、シリーズ録画、カテゴリー(ジャンル)別の表示など
を選べる

放送中の番組を選んで
[決定]ボタンを押すと、
その番組を見ることが
できる

番組の情報が表示される



録画予約は番組ガイドから (Windows Media Center)

パソコンなら予約録画もかんたん。番組ガイドから番組を選ぶだけで録画を予約できます。キーワードを指定して、そのキーワードに関わる番組を自動的に録画する、おまかせ録画もできます。▼Windows Vista Home Basicを使っている方は、40ページをご覧ください。

番組ガイドでラクラク予約

Windows Media Centerは、インターネットから番組ガイド(番組表)データを読み込んで表示することができます。チャンネル(放送局)ごとに表示されます。ジャンル別に絞り込んで表示することもできます。

録画予約も番組表から番組を選んで「録画」を選ぶだけです。

「シリーズ録画」を選ぶと、シリーズになっている番組を一度に予約できます。たとえば、連続ドラマや毎日のニュース、毎週のバラエティー番組などを一度に予約できます。

録画予約は、「テレビ・映画」の「番組検索」で、タイトルやキーワードで検索して予約することもできます。

「Windows Media Center」の使い方については、[スタート]→[Windows Vistaの使用]→[ヘルプとサポート]→[Windows…の新機能]→[Windows Media Centerを使用する]をご覧ください。



録画を予約する

- 番組表のまだ放送されていない番組を選んで
- [録画] を選ぶと、録画予約は完了です。
- 予約された番組の右側には●がつきます。
- 連続ドラマなど、いつも見る番組は、[シリーズ録画] で予約してください。



録画予約された番組には●がつく

まだ放送されていない番組を選んで[決定]を押すと、この画面が表示される。[録画] を選ぶと予約は完了

録画

この番組を録画するときを選ぶ

シリーズ録画

この番組のシリーズを全部録画するときを選ぶ

録画の詳細設定

録画の終了時間や画質、保存期間などを変えるときを選ぶ

その他の放送予定

この番組の再放送やシリーズの番組の放送予定を見るときを選ぶ

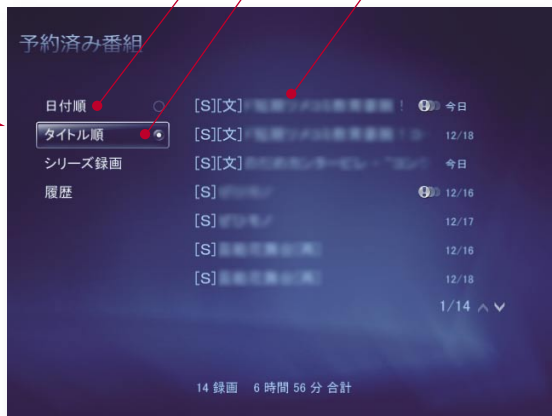


予約を確認する

録画予約を確認したいときは、[テレビ録画] 画面で [予約の表示] を選びます。予約したあとで、録画の終了時間や画質、保存期間などを変えたいときも、この画面で番組を選んで表示される [番組情報] 画面で変えます。



[予約の表示] を選ぶ



日付順に表示する

タイトル順に表示する

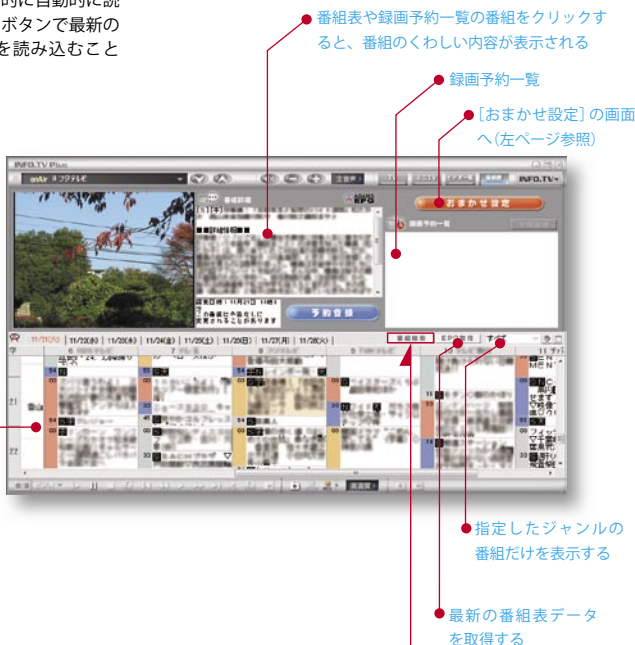
予約の一覧

録画予約は番組表から (INFO.TV Plus)

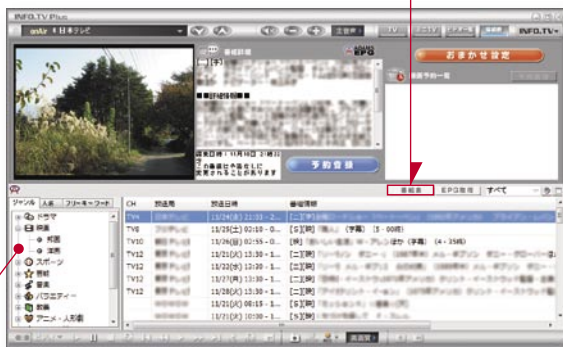
パソコンなら予約録画もかんたん。番組表から番組を選ぶだけで録画を予約できます。キーワードを指定して、そのキーワードに関わる番組を自動的に録画するおまかせ録画もできます。▼Windows Vista Home Premiumを使っている方は、38ページをご覧ください。

番組表を見る

INFO.TV Plusの番組表は、インターネットのADAMS-EPG+という番組表データを使っています。番組表データは定期的に自動的に読み込まれますが、[EPG取得] ボタンで最新の番組表データ(約1週間分)を読み込むことができます。



番組表
録画予約するときは、番組をダブルクリックするか、番組をクリックして[予約登録]をクリックし、[予約設定]画面で[予約登録]をクリックする



表示する番組のジャンルを切り替える

番組表でラクラク予約

INFO.TV Plusは、インターネットで約一週間分の番組表を読み込んで表示することができます。

新聞の番組欄のように表示したり、ジャンル別に絞り込んで表示したりすることが出来ます。

録画予約も番組表から番組を選んで、「予約設定」画面で予約内容を確認して、「予約登録」ボタンをクリックするだけで出来ます。

好きなタレントや興味のある分野(たとえば、「スペイン」、「アイドル」、「手話」など)をキーワードとして登録しておいて、自動的にキーワードを含む番組情報を持つ番組を録画する「おまかせ録画」もできます。

録画を予約する

番組表の番組をダブルクリックするか、クリックして[予約登録]をクリックすると、この画面が表示されます。予約内容を確認して、[予約登録]をクリックすれば、予約は完了です。

タスクトレイ(デスクトップの右下)に表示されている録画予約マネージャによって、時間になると番組が録画されます。パソコンがスリープ状態になっていても録画されます。

録画予約マネージャを終了すると、予約録画も番組表の自動取得も行われないのでご注意ください。

番組名

録画の日時。終了時間は、[延長]で30分が1時間延ばせる

チャンネルを選ぶ

画質を選ぶ

予約を削除する
下の予約一覧で予約を選んで[予約削除]をクリックする

予約を変更する
下の予約一覧で予約を選び、上の設定を変えて[予約変更]をクリックする

録画予約する
上の設定を確認して[予約登録]をクリックすると、予約され、下の予約一覧に表示される

予約の一覧
下の予約一覧で予約を選んで[予約削除]をクリックする

予約の変更
下の予約一覧で予約を選び、上の設定を変えて[予約変更]をクリックする

繰り返し
同じ曜日、同時刻の番組を毎週録画するときは[毎週]、月曜から金曜まで毎日同時刻の番組を予約するときは[月金]を選ぶ

録画予約マネージャ
タスクトレイ(デスクトップの右下)に表示される



キーワードでおまかせ録画する

[おまかせ設定]で、番組のタイトルや出演者などをキーワードとして登録しておく、そのキーワードを番組情報に含んでいる番組が自動的に録画されます。

おまかせリスト
[条件設定]に条件を設定して[検索結果表示]をクリックすると、番組表データ(約1週間分)から条件に合った番組が表示される

おまかせリスト
1行選んで下の条件設定でおまかせ録画する条件を設定し、[おまかせ登録]をクリックする。10個まで設定できる

条件設定
録画する番組の条件を設定する

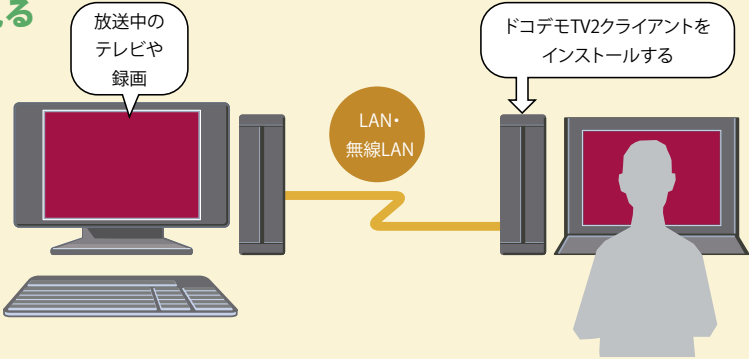
おまかせリスト

条件設定

検索結果表示

ドコデモTV2を使って他のパソコンで録画を見る

ネットワーク(LAN、無線LAN)でつながっているパソコンから、このパソコンで受信しているテレビ番組や録画したテレビ番組を、「ドコデモTV2クライアント」を使って見ることができます。「ドコデモTV2クライアント」は、このパソコンのハードディスクの中にあるので、CD-Rなどに保存して、テレビ放送や録画を見たいパソコンに、そのCD-Rを使ってインストールしてください。



映像 i m a g e

監督気分で映像を編集する

旅行の思い出、イベントの記念撮影、子どもの運動会・学会と、ビデオに録画した映像はどんどんたまるものの、なかなか整理はできないものです。でも、めんどくさな映像編集も、パソコンを使えばかんたんにできます。

編集は画面で並べるだけ

ビデオテープでの編集に比べれば、DVD/HDDレコーダではずいぶん簡単に映像を編集できます。それでも、リモコンだけでできる操作には限界があります。ちょっと複雑な編集はもうお手上げです。

ところが、パソコンの画面でやれば、素材を並べるのも、場面の切り替え方やタイトル、音楽を指定するのも簡単なんです。

映画監督気分で、映像の編集に挑戦してみませんか？

ここでは、Windows Vistaに付属する映像編集ソフト、Windowsムービーメーカーを使って、映像の編集について見てみましょう。

Windowsムービーメーカーの画面の使い方をおぼえよう

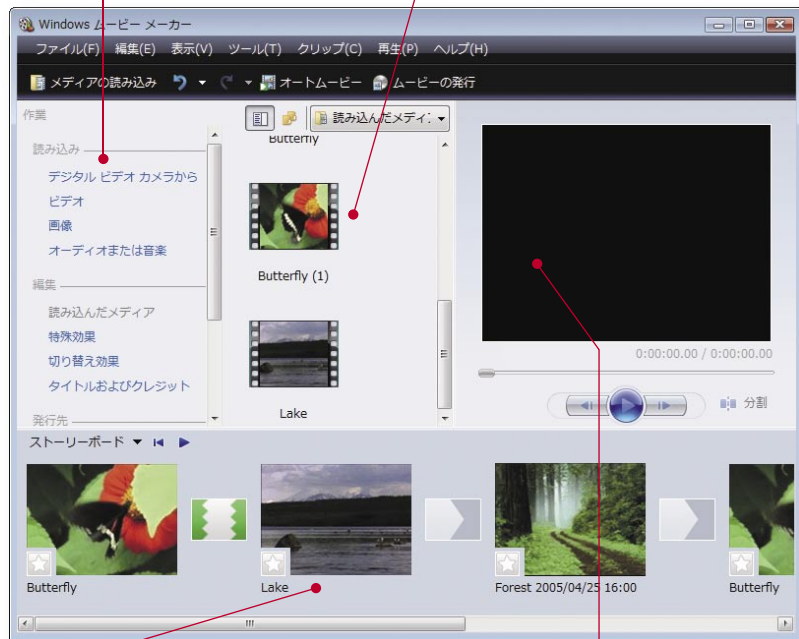
[スタート]→[すべてのプログラム]→[Windowsムービーメーカー]で起動すると、この画面が表示されます。この画面で、左側のメニューを上から順に選んで作業を進めていきます。まん中に表示される素材を下のストーリーボードかタイムラインに並べていきます。

作業のメニュー

[読み込み]、[編集]、[発行先]の3つに分かれている

素材や効果の一覧

読み込んだ素材や、特殊効果、切り替え効果はここで選ぶ



ストーリーボード・タイムライン

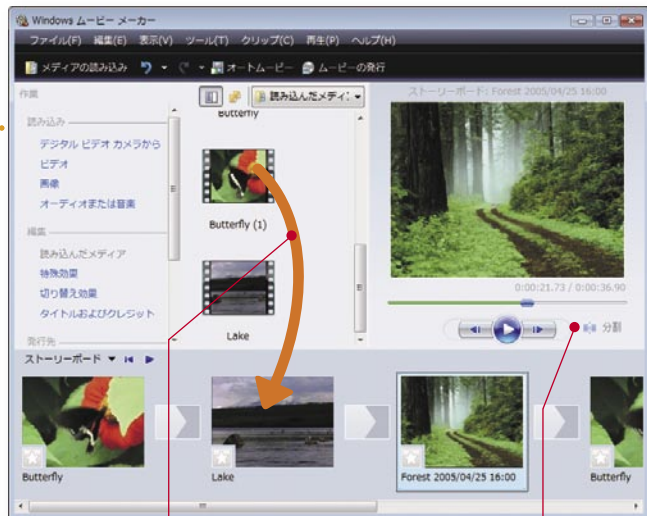
ここに素材を並べる。素材単位の表示(ストーリーボード)と時間にそったくわしい表示(タイムライン)を切り替えられる

プレビュー

ここでできあがりの映像を見て確認しながら編集できる

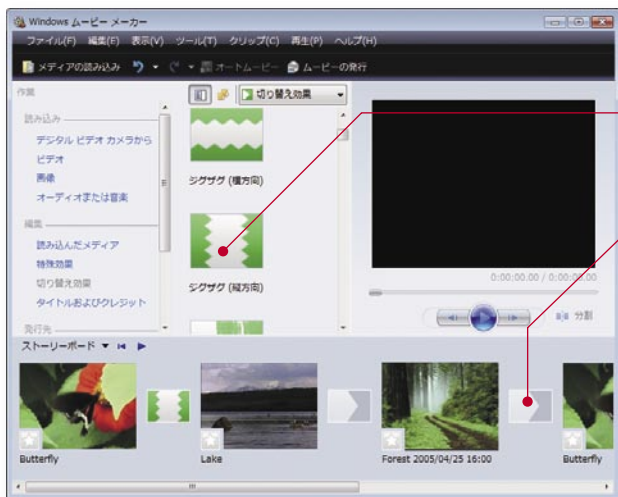
①素材を読み込んで並べる

デジタルビデオカメラの映像を使うときは、パソコンとIEEE1394ケーブルをつないで、作業のメニューで[読み込み]の[デジタルビデオカメラから]を選びます。パソコンの中にある映像を使うときは[ビデオ]を、写真(静止画)を使うときは[画像]を選びます。音楽を使うときは[オーディオまたは音楽]を選びます。



読み込んだ素材は下のストーリーボードに、ひとつずつドラッグして配置する

素材を切り分けたいときは、プレビューで素材を再生して、切り分けたいところで[分割]をクリックする



場面の切り替え方を選んで

場面と場面の間にドラッグする

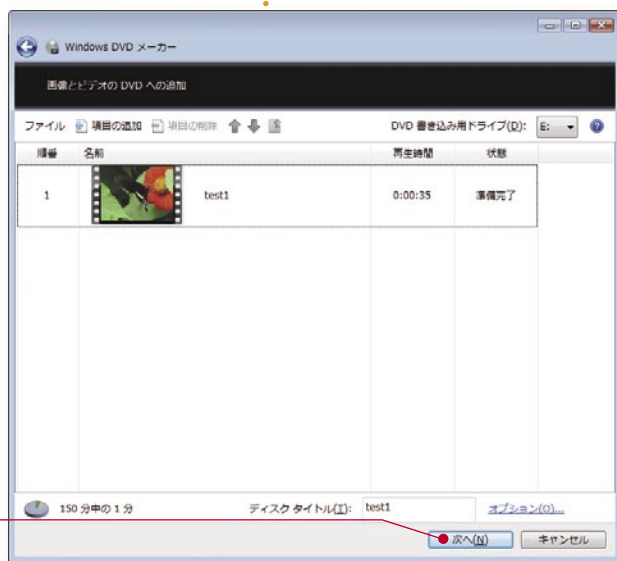
③DVDに保存する

できあがった映像(ムービー)を、DVDやパソコンのハードディスクに書き出すことを、Windowsムービーメーカーでは、[発行]といいます。

[発行先]で[DVD]を選ぶと、Windows DVDメーカーが起動します。一般的なDVDソフトと同じようにメニュー付きのDVD(「DVDビデオ」形式のDVD)を作ることができます。

②タイトルや効果を指定する

映像をセピア調にしたり、2倍速にしたりしたいときは、[編集]の[特殊効果]を選びます。場面の切り替え方は、[切り替え効果]を選びます。ギザギザに開いて切り替わる[ジグザグ]やモワッといったの間にか切り替わる[フェード]などがあります。[タイトルおよびクレジット]で、タイトルや字幕などの文字も入れられます。



[次へ]を選び、画面の指示にしたがって操作する

Windows Media Centerで録画した番組をDVDに保存する

Windows Media Centerの「テレビ録画」で、保存したい録画を選び、空のDVD-Rをパソコンにセットする

録画したテレビ番組を選んで、「書き込み」を選ぶと、DVDに保存できます。DVDのメニューは、Windows Media Centerと同じデザインのものになります。

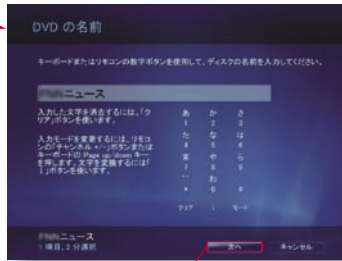


[ビデオDVD]を選び、[次へ]を選ぶ

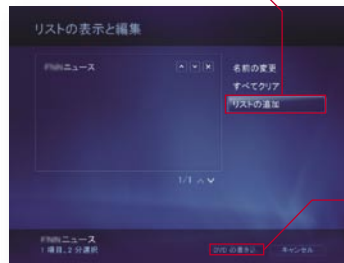


リモコンの①ボタンを押すか右クリックしてメニューを表示し、「書き込み」を選ぶ

他の番組もDVDに保存するときは、「リストの追加」をクリックし、テレビ録画かビデオライブラリから選ぶ。チェックマークをつけて[次へ]をクリックする



DVDのタイトルを入力し、[次へ]を選ぶ



保存する番組を選び終わったら、「DVDの書き込み」を選ぶ。「転送の開始」と表示され、「はい」を選ぶと、DVDへの保存がはじまる

●書き込みができるDVDディスク

DVDは、CDの約7～14倍の容量があります。種類の違いで使い分けてください。

DVDの種類	容量	
DVD-R	4.7GB DL(二層) 8.5GB	一度だけ書き込める。Windows Media Centerの「書き込み」やWindows DVDメーカーで、メニューをつけて映像を書き込むと「DVDビデオ」というフォーマットになり、DVDプレーヤーで鑑賞できる。
DVD-RW	4.7GB	書き換えができる。一般に書き換え時にフォーマットが必要。
DVD-RAM	片面4.7GB 両面9.4GB	書き換えができる。
DVD+R	4.7GB DL(二層) 8.5GB	一度だけ書き込める。
DVD+RW	4.7GB	書き換えができる。一般に書き換え時にフォーマットが必要。

DVDプレーヤーで見たいときは、Windows Media CenterやWindows DVDメーカーなどのソフトで、DVD-Rに、DVDビデオというフォーマットで保存します。ただファイルを保存するだけなら、空のDVDをセットして、そのドライブのウィンドウにファイルをドラッグ&ドロップすれば保存できます。

テレビ録画などの映像を他のパソコンやDVDプレーヤーで見たいときや、保存しておきたいとき、ディスクドライブがDVDに書き込めるタイプなら、DVDに保存できます。外付けのDVDドライブを購入して使うこともできます。

容量が大きいデータはDVDに

映像 image

映像はDVDに保存しよう

録画したテレビ番組も、たまるとハードディスクがいっぱいになってしまいます。映像のデータは容量が大きいので、DVDディスクに保存します。大量のデータを保存するときにもDVDが活躍します。

【日々の備え】

【生活と仕事】

【写真】

【映像】

【音楽】

【インターネット】

【LANと周辺機器】

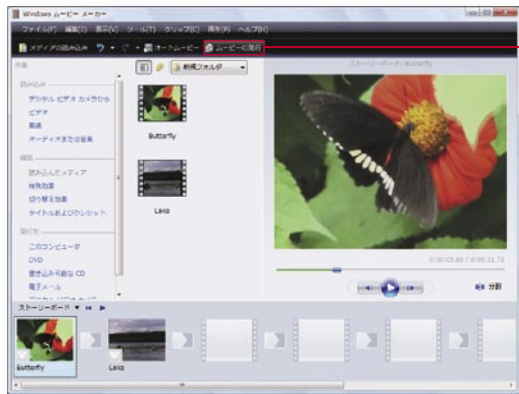
【トラブル】

Windowsムービーメーカーで編集した映像をDVDに保存する

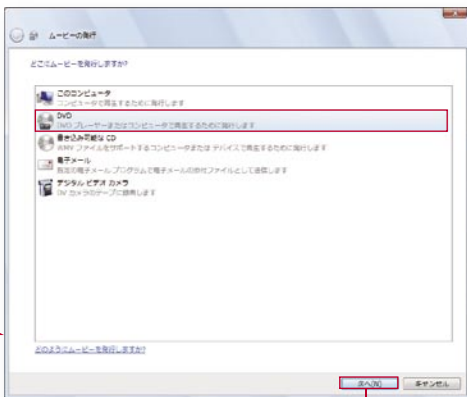
Windowsムービーメーカーでは、映像をDVDに保存したり、メールに添付して送ったりするなど、Windowsムービーメーカーというソフトの枠組みから外に出ることを「発行」といいます。

編集した映像をDVDに保存するときは、[ムービーの発行]を選び、[DVD]を選びます。自動的に、Windows DVDメーカーが起動するので、鑑賞するときのメニューの絵柄を選んでDVDに書き込みます。

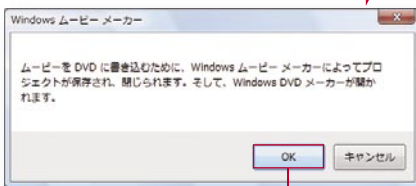
DVDプレーヤなどで鑑賞できる「DVDビデオ」という形式で保存されます。



編集した映像のプロジェクトを開いた状態で[ムービーの発行]をクリックする



書き込み先として[DVD]を選んで[次へ]をクリックする



[OK]をクリックする

INFO.TV Plusで録画した番組をDVDに保存する

INFO.TV Plusで録画した番組は、[INFO.TV] → [設定] → [オプション設定] → [保存場所設定]の[録画ファイルの保存場所]に指定されている場所の保存されます。初期設定では、[C:\Video] (Cドライブの[Video]フォルダ)に保存されます。

Windows DVDメーカーを起動して、[項目の追加]で、[Video]フォルダに保存されている録画ファイルを指定してディスクに保存します。

INFO.TV Plusについて、くわしくは、[スタート] → [すべてのプログラム] → [INFO.TV] → [ユーザーズマニュアル] (PDF) をご覧ください。

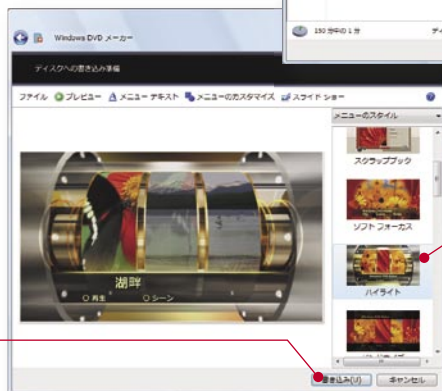
[スタート] → [すべてのプログラム] → [Windows DVDメーカー]を起動して、空のDVD-Rをディスクドライブにセットする

[項目の追加]をクリックすると、DVDに保存する映像ファイルを追加することができます。INFO.TV Plusで録画した番組は、初期設定では、「C:\Video」に保存されている

この後の操作は、INFO.TV Plusで録画した番組をDVDに保存する場合と同じ操作



DVDに保存する映像ファイルが表示される



[書き込み]をクリックするとDVDへの書き込みがはじまる

DVDのメニューを選ぶ

テレビ放送などの著作権を録画した映像や音声は、権利者に許可された場合を除き、個人で楽しむ以外の使い方はできません。コピー制御されているテレビ放送は、録画や複製 (DVD への保存など) ができない場合があります。

音楽

C

パソコンで音楽を聴こう

音楽はネットからダウンロード

好きな音楽を持って外に出よう

M u s i

■ パソコンを使った音楽の楽しみ方を紹介します。

■ このパソコンに、プリインストールされている音楽プレーヤソフト、Windows Media Player、BeatJamを使って説明します。

■ Windows Vista Home Premiumであれば、Windows Media Center®も使えます。

■ 携帯音楽プレーヤを持っているなら、その製品に付属するソフトをインストールして使ってください。

■ また、お気に入りのダウンロードサイトがあれば、そのサイトが推奨するソフトをダウンロードして、楽しむこともできます。

■ 音楽プレーヤソフトや携帯音楽プレーヤは、それぞれ、扱える音楽ファイルの形式が決まっています。あなたが使っている携帯音楽プレーヤやダウンロードサイトと同じ音楽ファイル形式を扱える音楽プレーヤソフトを選んでください。

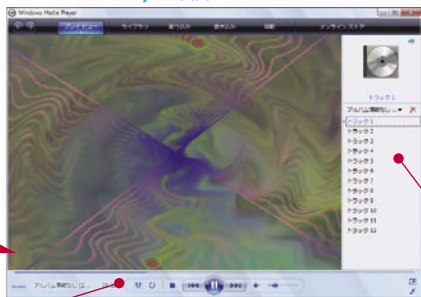
音楽

Music

パソコンで音楽を聴こう

音楽CDをセットすれば、そのままオーディオコンポになるパソコンですが、ただ聴くだけではもったいない。持っているCDの曲をハードディスクにどんどんためていくと、自分だけのジュークボックスができます。お目当ての曲を検索する。ジャンルごとに分けて聴く。お気に入りの曲だけ集める。さまざまな楽しみ方ができるんです。

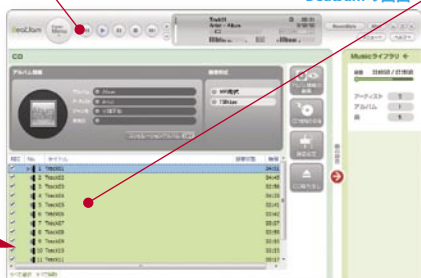
Windows Media Playerの画面



再生、一時停止など、曲を操作するボタン。音量も調節できる

CDの情報。パソコンがインターネットにつながっていると、自動的にCDのデータベース(Cddb)から探し出された情報が表示される。(Cddbに登録されていないCDは曲番号と演奏時間のみ)

BeatJamの画面



CDを再生する

ディスクドライブに音楽CDをセットすると、そのCDをどう扱うかをたずねる画面が表示されます。「オーディオCDの再生」も、どの音楽プレーヤソフトで再生するかによって、いくつか表示されます。どれかを選ぶと再生は始まり、再生の操作の画面が表示されます。音楽CDをセットすると自動的に再生がはじまるように設定することもできます。

どちらかを選んでダブルクリックすると、音楽プレーヤが起動し、再生ははじまる



ここにチェックを入れておくと、次回からCDを入ると今回選んだ音楽プレーヤが自動的に起動するようになる

たまった曲はライブラリに

パソコンのディスクドライブに音楽CDをセットしてみましょう。どの音楽プレーヤソフトで再生するかに応えるだけで再生ははじまり、オーディオ機器と同じように操作できます。再生するだけなら、どの音楽プレーヤソフトを選んでもかまいません。ここでは、Windows Media PlayerとBeatJamの使い方を見てみます。

CDの曲をパソコンのハードディスクに取り込んでためていくと、CDを入れ替えたりしなくても、続けて再生できるようになります。

曲は「ライブラリ」のなかに、タイトル、アーティスト名、アルバム名、ジャンルなどの情報といっしょに取

り込まれるので、聴きたい曲を探したすのもとても簡単です。

自分だけの選曲で音楽を聴く

しかも、その情報で絞り込めるので、アルバムをそのまま聴くだけでなく、好きなアーティストの曲だけを続けて聴いたり、好きなジャンルの曲だけを流し続けたりということもできます。

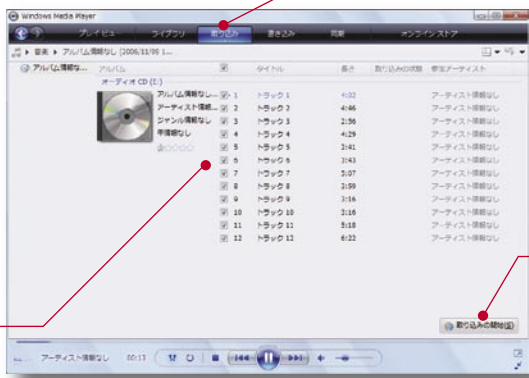
曲をライブラリから選んで、「再生リスト」、「プレイリスト」といったリストに登録すれば、自分だけの選曲で音楽を流すことができます。オーディオ機器では、一般に「プログラム再生」と呼ばれる機能です。パソコンではCDを入れ替える必要もないし、順番も簡単に並べ替えられます。

ライブラリに曲を取り込む

CDの曲は、情報ごと[ライブラリ] (BeatJam ではなく[Musicライブラリ])に取り込めます。 いらぬ曲はチェックボックスをクリックしてチェックをはずしておけば取り込まれません。 CDがCDDDBに登録されていなかったり、インターネットにつながっていないために情報が自動的に表示されないときは、手作業でも入力できます。

アルバム名、曲名などの情報は、右クリックして[編集]を選ぶと入力できる

Windows Media Playerの画面



[取り込み]をクリックすると、選曲の画面になる

[取り込みの開始]をクリックするとライブラリに曲が取り込まれる

BeatJamの画面

(Musicライブラリ パネルが表示されているときは、[曲の追加] ボタンの[CDからの録音]を選んでCD パネルを表示する)

曲名は、右クリックし、[名前の変更]を選ぶと入力できる

[曲の録音]をクリックすると音楽ライブラリに曲が取り込まれる



クリックすると、アルバム情報を入力できる

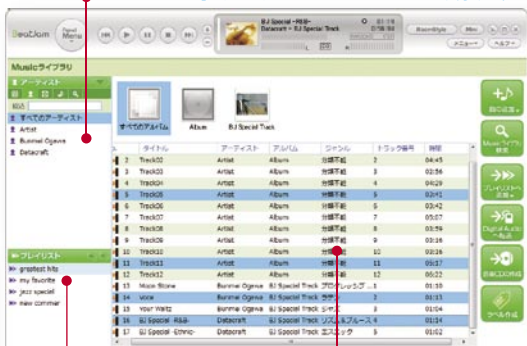
好きな曲だけ選んで聴く

ジャンルごとやアーティストごとなど、条件を絞り込んで曲を探すことができます。さらに、お気に入りの曲だけを集めたリストを作って再生リストやプレイリストに登録しておく、次からはリスト名をクリックするだけでお気に入りの曲を聴けます。

BeatJamの画面

絞り込む条件をクリックする

(CDパネルが表示されているときは[musicライブラリ]を選んでMusicライブラリ パネルを表示する)

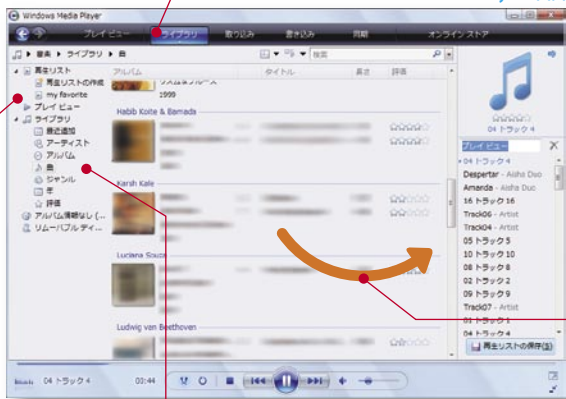


リスト名は、右クリックして[名前の変更]で変えられる

プレイリストに入りたい曲をクリックして反転表示させ[Ctrl]キーを押しながらクリックすると複数の曲を選ぶ、[プレイリストへ追加]をクリックする

再生リストを作る。リスト名を決めて入力したら、ドラッグ&ドロップで曲を集め、[再生リストの保存]をクリックする

Windows Media Playerの画面



作成した再生リストはここに表示される

絞り込む情報をクリック。曲のタイトルをクリックすると再生ははじまる



音楽はネットからダウンロード

思い出のあの曲、手に入れたのにCDショップを探してもどこにもない……そんなときは、ダウンロードサイトを検索してみましょう。
 アルバムに収録されている曲が気に入ったんだけど、アルバムごと買うのはちょっと……そんなとき、ダウンロードサイトなら一曲単位で買えます。
 CD派のあなたも、知っておけば損はしない、ネットで音楽を手に入れる方法。まずは試聴してみませんか？

ムダなく経済的な音楽ライフ

好きなアーティストの曲は、必ずCDで買う。そんなこだわりの人も、ダウンロードサイトの便利さを知れば、音楽の世界がぐんと広がります。
 まず、コンビニよりも手軽。24時間年中無休。出かげずに、その場で音楽が手に入る。そして、豊富な品揃え。店から姿を消した一昔前の曲も一発検索、最新の曲も売り切れなし。ネットで先行配信というケースもあります。

30秒程度の試聴もできるので、曲の感じがつかめます。アルバム収録曲でも、試聴してから一曲ずつ買えるから、はずすことがない。
 簡単にムダなく経済的に、好きな曲を集められます。

ダウンロードサイトってどんな感じ？

サイトはたくさんありますが、だいたいトップの画面は、使い方の説明や、検索のガイド、おすすめ曲の紹介などで構成され、いろいろな角度から曲にたどり着けるように工夫してあります。

ダウンロードサイトの例
 BeatJamで[曲の追加]→[音楽ダウンロードサービスで曲を購入]を選ぶと[Music@life]にアクセスする

Music@Life ログイン名 (メールアドレス) パスワード

2006年を振り返る「ダウンロードランキング」公開中

Service Menu

- 音楽を手に入れる
- 音楽を持ち出す
- 音楽を探す
- 音楽を知る

BeatJam 2006

Mora モーア アーティスト

ミュージックランキン [More]

アルバムランキン [More]

♪新曲情報 [More]

♪Moraへログイン

BeatJam/Moraで音楽は簡単! Moraのログインはこちら

News

2006年のダウンロードランキング公開、世代別、男女別もご覧いただけます。

音楽を、知る / 探す

クリックサーチ

手に入れる / 持ち出す

@Lifeレジ

AnoAno×Music

自分×Music

流行の曲を聴きたいときやレパートリーを広げたいときのガイドに

ジャンルやアーティスト、アルバムの一覧から選んだり、キーワード検索ができる検索ガイド

ファイル形式に注意!

サイトは、配信される音楽ファイルの形式によって、大きくWMA系とATRAC3系の2種類に分かれます。
 携帯音楽プレーヤーで聴くためには、その機種で再生できるファイル形式で配信しているサイトを選ぶ必要があります。
 サイトの説明のコーナーで、あなたが持っている機種が推奨されているか、確認してから利用してください。

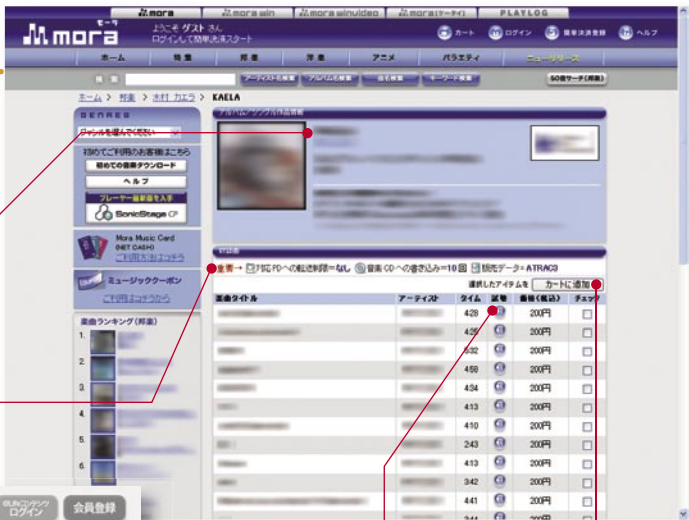
書き込みや転送の制限について

配信曲には、楽曲が無制限にコピーされるのを防ぐために、デジタル著作権保護技術 (OpenMGやWindows Media DRM 10) による情報が付加され、CDに書き込んだり携帯音楽プレーヤーに転送できる回数に制限がつけられています。ダウンロードする前に、確認しておきましょう。

音楽配信サイトにアクセスしてみよう

Windows Media Playerで画面右上の[mora win 音楽ダウンロード]か[Media Guide]の下の▼をクリックして、音楽配信サイトを選べます。

BeatJamでは[曲の追加]で[音楽ダウンロードサービスで曲を購入]を選ぶと、[Music@life]というBeatJam専用サイトを經由して、ATRAC3形式のmoraにアクセスできます。



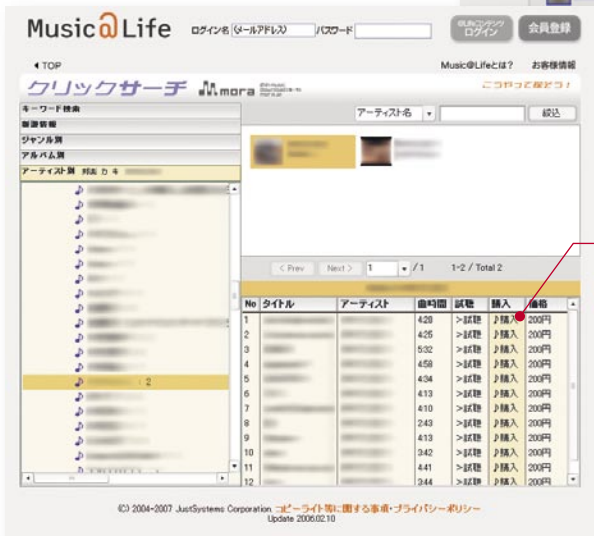
作品情報

制限情報、配信音楽形式。重要な情報なのでよく確認しておこう

クリックすると試聴できる

買う曲にチェックを入れ、「カートに追加」をクリックする

[購入]の欄をクリックするとmoraへ移動



一般的な購入の流れ

購入に必要なのは、曲を選ぶことと、クレジットカードなどの支払い方法を決めてクレジット番号などの入力をするのですが、実際の手順は、サイトによって異なります。曲を選んで決済するときに支払い方法を登録する場合や、最初に支払い方法を選んでおいて、曲を選ぶとすぐにダウンロードされるワンクリックダウンロードなどがあります。購入した曲は、ライブラリの画面に戻ると聴くことができます。

(アカウントを登録する・ログインする)

曲をさがす・試聴する

曲を選ぶ(カート(買い物カゴ)に入れる)

決済する

ダウンロードする

ワンクリックダウンロード

曲を選んでクリックすると決済とダウンロードが同時に行われる



好きな音楽を持って外に出よう

せっかく大量の音楽があるのに、パソコンの前でしか聞けないのはもったいないですね。大好きな曲を集めたお気に入りCDを作ってはどうでしょう。もちろん、携帯音楽プレーヤでも楽しむことができます。

マイ音楽CDを作る

ライブラリの曲をCDに書き出すと、他のオーディオ機器で再生して楽しむことができます。

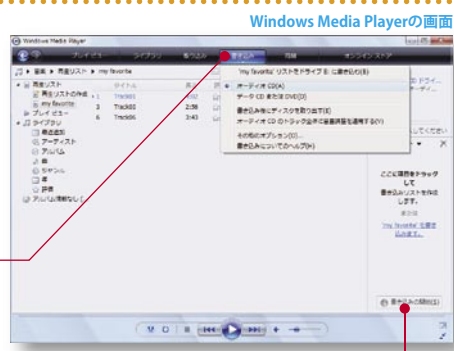
お気に入り曲をまとめたリストがあれば、そのままCDに書き出すと、自分だけの特別なCDができます。

その場で書き出す曲をリストアップすることもできるので、アーティストごとにまとめたり、ジャンルでまとめたりと、いろいろ工夫するのでもまた楽しいものです。

ただし、ダウンロードした曲は、CDに書き出す回数に制限がある場合があります。すでに書き出し回数を超えていたり、はじめから書き込み0回になっていると書き出せません。

CDに書き出す

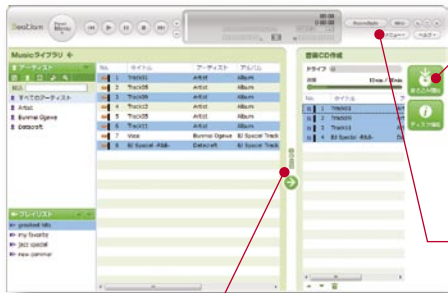
空のCDをディスクドライブにセットして、書き込む曲を選ぶだけで、簡単に音楽CDが作成できます。曲は、新しく選ぶことも、すでに作ったリストを使うこともできます。



「書き込み」をクリック。すでにあるリストを選ぶか、ドラッグ&ドロップでリストを作成する

「書き込みの開始」をクリックする

BeatJamの画面（「Musicライブラリ」パネルで、「音楽CDの作成」ボタンをクリックする）



「書き込み開始」をクリックする

「ジャストホームEX」をインストールすると、「メニュー」の「ツール」→「ラベル作成」でCDラベルを作ることができる

曲を選んで「曲の追加」をクリックする

ファイル形式とビットレート

音声のデータは容量が大きいため、いらぬ部分を削ったりしてデータを圧縮します。ファイル形式によって、圧縮方法や付加情報が違います。

名称・拡張子	主な特徴	Windows Media Player	BeatJam
WMA	Windows Media DRM* 対応	○	○
ATRAC3(OMA)	OpenMG* 対応	×	○
AAC	iTunes形式	×	×
MP3	デジタル著作権保護制限なし	○	○
CDA	音楽CD	○	○
WAVE (WAV)	デジタル圧縮なし	○	○

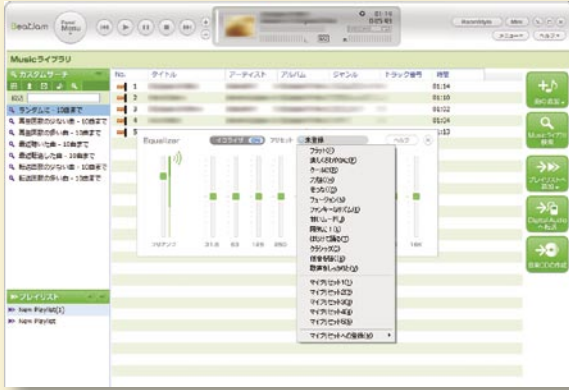
*Windows Media DRM 10、OpenMGは、デジタル著作権保護技術(DRM)です。



例：Windows Media Playerで「取り込み」を右クリックしたところ
ビットレートは、圧縮の度合いです。数字が高いほど、音質が良くなりますが、データのサイズも大きくなります。ハードディスクの容量と音質を考慮してビットレートを選びます。

こんな楽しみ方はいかが？ ～グラフィック イコライザを使ってみよう

ちょっと高級なオーディオ機器には、操作パネルに、音程によって音量を変えられる装置がついています。低音を強調する、とか、高い音がはっきりする、というように自分好みの音に調整して聴く、気分がよさそうですね。パソコンで簡単にできるので、試してみましょう。



Windows Media Playerでもグラフィックイコライザが使える

BeatJamでは、いくつかのイメージがプリセットされているので、選ぶだけで簡単に試せます。パネル上部の曲名表示の [EQ] をクリック→[プリセット]を選択

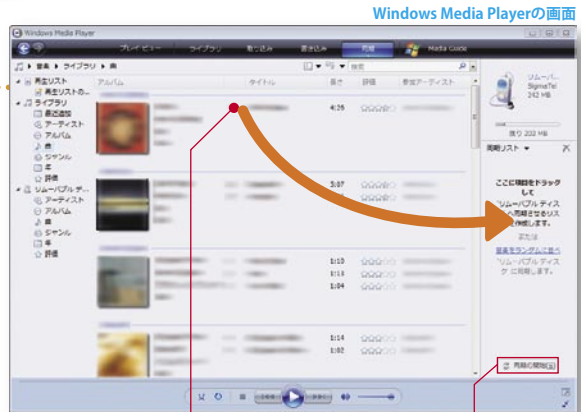
携帯音楽プレーヤに曲を転送する

携帯音楽プレーヤをパソコンに接続して転送したい曲を選びます。(接続方法については携帯音楽プレーヤの説明書を参照してください)

はじめて携帯音楽プレーヤを接続したときは[デバイスの設定]画面が表示される

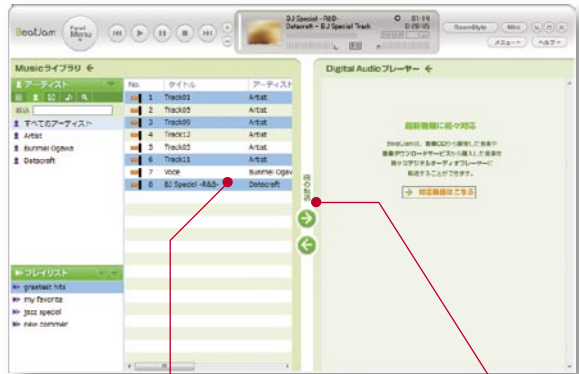


[完了]をクリックする



転送したいアルバムや曲を表示し、同期リストにドラッグ&ドロップする [同期の開始]をクリックする

BeatJamの画面



転送したい曲を選ぶ ([CTRL] キーを押しながら選ぶと複数の曲を選択できる)

[曲の転送]をクリックする

音楽を外で聴こう

ライブラリの曲は、携帯音楽プレーヤに転送できます。パソコンで楽しんでる曲を、文字どおり外に持ち出すことができます。

Windows Media Playerでは、この機能を、「同期」といいます。パソコンと携帯音楽プレーヤの内容を一致させるという意味です。

■インターネットを見たくてパソコンを買った人、多いと思います。それではお目当てのサイトはいったいどうやったら見られるのか。ネット検索のやり方をいくつか知っておくと便利です。

■見ているうちに、自分でもブログを書いてみたくなるかもしれません。ブログは、案外簡単に作れるんです。

■インターネットを使うと、テレビ電話もできます。顔を見ながら話す楽しみだけでなく、遠距離でも長時間でも電話代がかからないというメリットもあります。

■パソコンのメールは、携帯電話のメールより、大きいファイルを添付でき、受信ファイルをパソコンで整理や保存できて便利です。なにより、キーボードに慣れれば、長い文章でも入力が楽です。

■メールのアドレス帳には、住所や電話番号なども登録できるので、住所録として利用すると、たとえばはがき印刷ソフトなどに移行して使えます。

■情報検索ツールとして、コミュニケーションツールとして、インターネットを使いこなしましょう。

t e r n e t

n

メールを送る、メールを読む

i

宛名や添付を使いこなしてメールの達人になる

メッセージャーでテレビ電話

ウェブはあなたの情報源

ブログ(簡単更新型ホームページ)で日記をつける

インターネット

【日々の備え】

【生活と仕事】

【写真】

【映像】

【音楽】

【インターネット】

【LANと周辺機器】

【トラブル】

メールを 使えるようにする

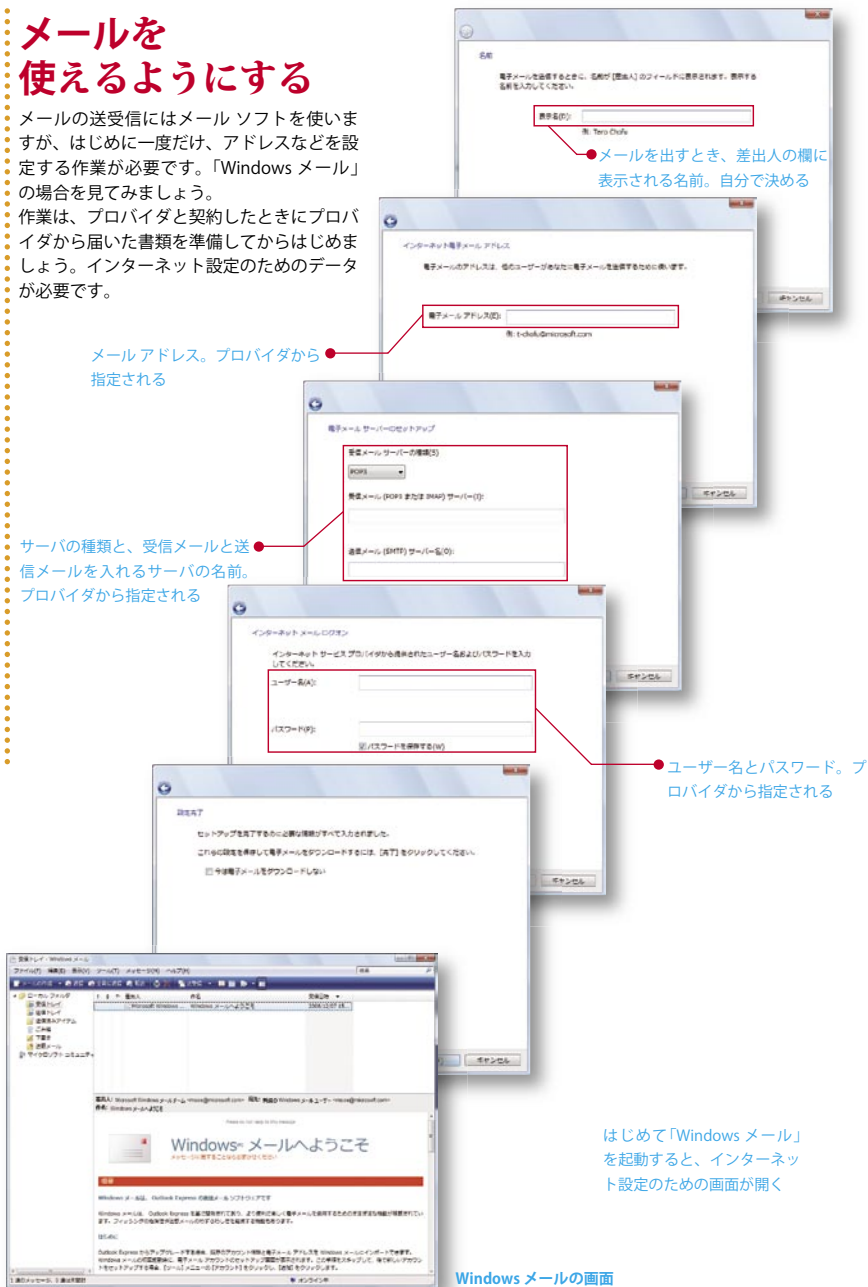
メールの送受信にはメールソフトを使いますが、はじめに一度だけ、アドレスなどを設定する作業が必要です。「Windows メール」の場合を見てみましょう。

作業は、プロバイダと契約したときにプロバイダから届いた書類を準備してからはじめましょう。インターネット設定のためのデータが必要です。

メールアドレス。プロバイダから指定される

サーバの種類と、受信メールと送信メールを入れるサーバの名前。プロバイダから指定される

ユーザー名とパスワード。プロバイダから指定される



Windowsメールの画面

はじめて「Windows メール」を起動すると、インターネット設定のための画面が開く

ネット

メールを送る、メールを読む

ほとんどの人が、携帯ですてに使用しているメール。場所も選ばないし、便利で手軽。とりあえず携帯メールでいいかな、と思うかもしれませんが、パソコンのメールなら、長い文章も楽勝、ファイルも添付できる。

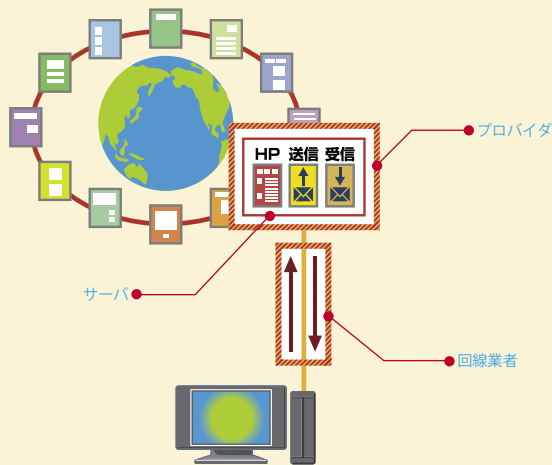
パソコンのメールはどう違う？

携帯メールは、自分でアドレスを決めればすぐに使いはじめられます。パソコンでは、まず、プロバイダと契約してアドレスをもらう必要があります。送受信はメールソフトを使います。

携帯メールより、ちよつとめんどうかもしれませんが、キーボードに慣れれば文章を打つのがラク、字数制限がない、小さい画像や短い音声だけでなく、いろいろなファイルを添付できる、リンクから簡単にホームページを見られる、などメリットがたくさんあります。

ただし、携帯にメールを送るときは、字数の制限に気をつけましょう。画像を送るときも、携帯で受け取れる大きさが確認しましょう。

プロバイダと回線業者



プロバイダ

プロバイダは、インターネットにつながっているサーバを持っている会社です。あなたのパソコンは、直接インターネットにつながるのではなく、プロバイダを経由してアクセスします。

プロバイダと契約すると、受信メールのサーバと送信メールのサーバに、あなたの私書箱を設置してくれます。メールアドレスは、その私書箱の住所です。パスワードは、私書箱を開ける鍵なので、きちんと管理しましょう。

さらに、ホームページのためのスペースをくれたり、ウィルスのガード等、セキュリティのサービスをしてくれるプロバイダもあります。

回線業者

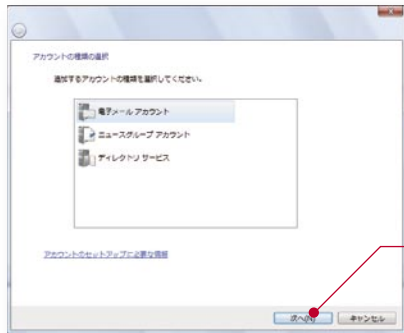
プロバイダのサーバまで、物理的にデータを送る手段を提供するのが回線業者です。光ファイバー（家まで線を引く）やADSL（電話回線を使う）、CATV（ケーブルテレビの回線を使う）などがあります。

このように、インターネットを楽しむには、まずプロバイダと回線業者を決める必要があります。プロバイダが回線業者をかねている会社もあります。

メールを受け取る

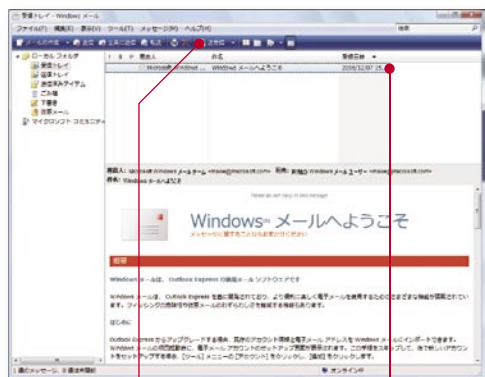
普通は、Windows メールを開いたとき、自動的に受信サーバに接続して、パソコンの受信トレイにメールを受信してくれます。また、決まった間隔で接続して、新着メールがあれば受信します。途中で確認したいときは、[送受信]をクリックします。

メールアドレスを複数持っているときは、メールアドレスを追加できる



[ツール] → [アカウント] → [追加] で表示される画面

● [電子メールアカウント]を選んで [次へ] をクリックすると、メールアドレスの設定の画面が開く



[送受信] をクリックすると、すぐにサーバの中を見て、新着メールがあれば読み込む

受信トレイに入っているメールが一覧で表示されているので、読みたいメールのタイトルをクリックしてメールを開く

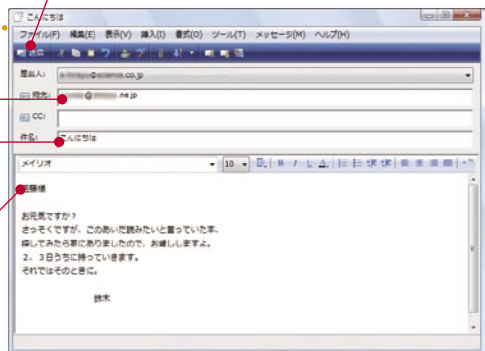
メールを作って送る

[メールの作成] をクリックすると、[メッセージの作成] 画面が開きます。受信したメールに返信を書くときは、[返信] をクリックすると宛先が入力された同じ画面になり、宛先を入力する手間が省けます。

宛先のメールアドレスを入力する

● メールタイトルを入力する。宛先の受信一覧に表示されるので、わかりやすいものにする

● メッセージ文を入力する



● [送信] をクリックすると、作成したメールが送信トレイに移され、送信される。送信トレイの中身は、定期的に送信サーバに送られるが、すぐに送りたいときは、[送受信] をクリックする



宛名や添付を使いこなしてメールの達人になる

カラフルなメールや写真付きのメールはパソコンで送れないの？
グループに一齐に送信できないの？
だいたいどうぶ、できます。Windows メールを使いこなして、いろいろなメールを送ってみましょう。

メールを便利に楽しく使う

メールの送信先は、「アドレス帳」に登録しておく、毎回入力しなくても、すぐに指定できます。

他にも、メールにはいろいろな使い方があります。

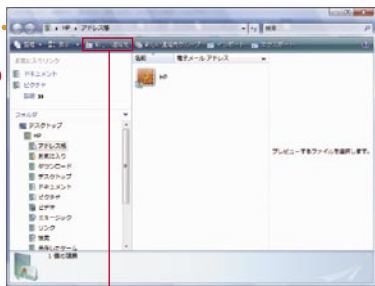
たとえば、メールにはたくさんの送信先を指定して送れます。複数の送信先を指定するときは、宛先とCとBCCを使い分けると便利です。宛先は、主となる送信先に、CCは、「参考のために送る」といったときに使います。BCCは、他の送信先にそのメールアドレスがわからないように送るときに使います。

写真やファイルをメールに付けて送ることもできます。

アドレス帳にメールアドレスを登録する

Windowsメールの [ツール] → [Windows アドレス帳] を選ぶと、情報を登録できるので、毎回アドレスを入力しなくて済みます。数件のアドレスをまとめたグループを登録することもできるので、一括送信もできます。

[新しい連絡先グループ] をクリックすると、グループ登録できる



[新しい連絡先] をクリックすると、プロパティが表示され、個人を登録できる

姓名を入力する

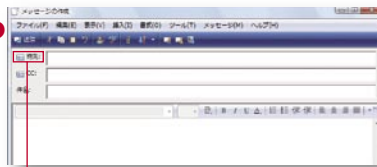
メールアドレスを入力する

[OK] をクリックすると、登録される



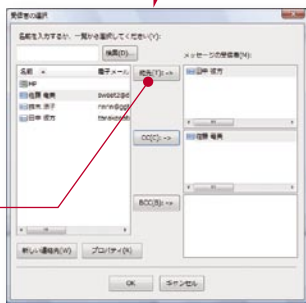
アドレス帳から宛名やCC、BCCを指定する

同じメールを複数の人に出したいときは、宛先の欄に複数のアドレスを入れます。CCの欄にアドレスを入れても、同じようにその宛先に、同じメールが送られます。もし、他の人にアドレスが見えないようにして送るときは、BCCの欄にアドレスを入れます。



[メッセージの作成] の画面で、[宛先] をクリックすると、[受信者の選択] が表示される

左側で送信先を選んで [宛先] をクリックすると、右側の宛先欄に送信先が入る



自分の署名をつける

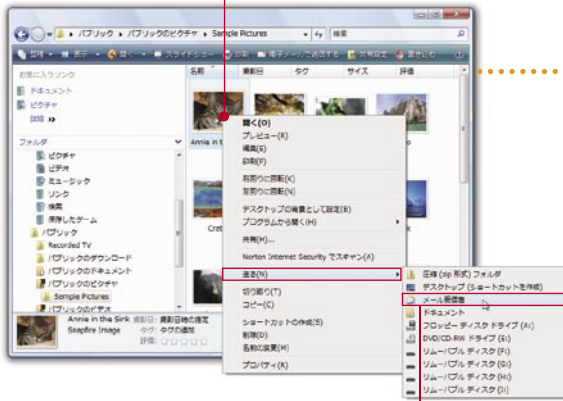
[ツール]→[オプション]→[署名]タブで、あらかじめ連絡先などを入れた自分の署名を作っておくと、毎回名前を入れなくても、自動的にメールの後ろに署名がつけます。複数の署名を作っておくと、[メッセージの作成]画面でメッセージ文を入力しているときに、[挿入]→[署名]を選べば、メール毎に署名を変えることができます。




[作成]をクリックすると、新しい署名が作られる



署名(メールの最後に入れる文面)を入力する

画像やファイルを右クリックして、[送る]→[メール受信者]を選ぶ



写真やファイルをメールに添付する

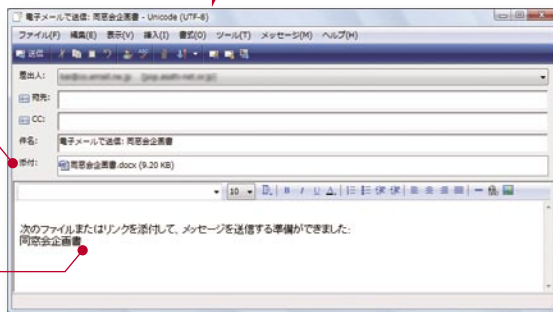
メールで送りたいファイルは、右クリックして表示されたメニューで、[送る]→[メール受信者]を選ぶと、メールソフトの新規メール作成の画面(「Windows メール」の画面、Microsoft Officeをインストールすると「Outlook」の画面)が表示されるので、送信先を指定してメールを書けば送れます。メールを先に書いたときは、メール作成画面のをクリックして、添付する画像やファイルを指定します。

添付するファイルをフォルダのウィンドウに表示しておいて、新規メールの文章の欄にドラッグ&ドロップする方法もあります。文章の途中に画像を入れたいときは、文章の途中にカーソルを入れてから、 (Outlookのときは、[挿入]タブの)をクリックして、画像を選びます。

Outlookのメールを[Outlookメッセージ形式]で保存して、そのメールをメールに添付して送ることもできます。あまり、大きなファイルを添付すると、プロバイダによって送信や受信ができなかったり、先方に迷惑だったりすることがあるので気をつけましょう。

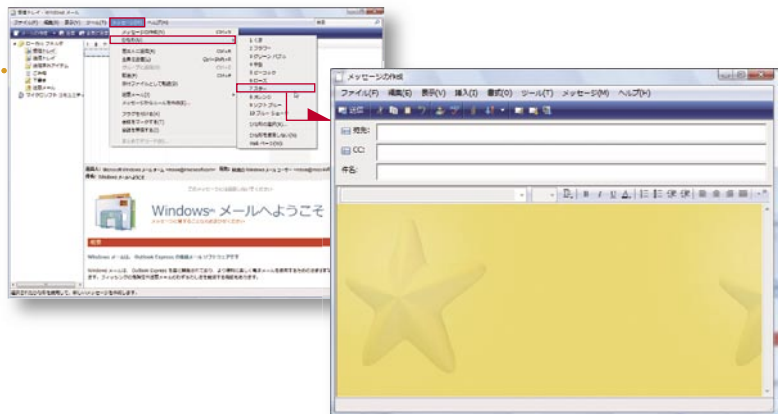
[添付]の欄が表示され、ファイル名が入る

ここに画像やファイルをドラッグ&ドロップしてもいい



カラフルなメールを作る

[メッセージの作成]画面で[メッセージ]→[ひな形]でひな形を選ぶと、文章欄に、便箋のような模様を表示させたり、ホームページの画面を入れたりすることができます。





メッセージャーでテレビ電話

遠くの友だちと顔を見て話したい。時間が合わない人と打ち合わせしたい。テレビ電話があれば、すごく便利なのに。インターネットにつながったパソコンとウェブカメラとマイクとスピーカがあれば、テレビ電話ができるんです。しかも、インストールの接続にかかる料金以外はタダなんです。もちろん、音声だけの電話もできます。

インターネットを使った電話

空想の未来社会のシンボルだったテレビ電話も、携帯電話などで身近なものになりました。

パソコンでもインターネットを使ってテレビ電話ができます。

ここでは、マイクロソフト社のWindows Liveメッセージャーを使う方法を紹介しましょう。

必要なものは、カメラとマイクとスピーカ。それから、光ファイバーやADSLなどのブロードバンド回線でインターネットにつながったパソコンとソフト。

ただし、インターネットやLANの環境によっては、メッセージャーソフトが機能しない場合があります。

カメラと回線で画質が決まる

カメラには、パソコンに接続するために作られたウェブカメラという種類のカメラを使います。カメラやインターネットの回線速度で画質が変わります。

マイクとスピーカは一体になったヘッドセットというタイプのものが、ウェブカメラに付属していることが多いようです。

Windows Liveメッセージャーの専用のソフトをダウンロードしてインストールし、登録してアドレスを作れば準備完了。

相手にも同じように登録してもらって、アドレスを教えてもらえば、さっそく通話できます。

Windows Liveメッセージャーに登録する

Windows Liveメッセージャーのサイト「<http://messenger.live.jp>」でWindows Liveメッセージャーをダウンロードしてインストールします。

まず、アカウント(自分用のID=ここでは、Windows Liveメッセージャー用のHotmail®メール アドレス。無料)を作ります。連絡用のメール アドレスが必要です。



● アカウント (Hotmailのアドレス)を入力する

● パスワードを入力する



● はじめてのときは、Windows Liveメッセージャーを起動し、[新規アカウントの作成]をクリックすると、アカウントの作成画面が表示されるので、連絡用のメール アドレスなどを入力して、アカウントを作る

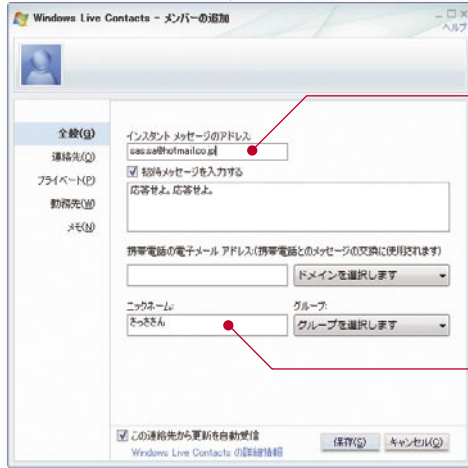
アカウントが決まったら、アカウントとパスワードを入力する

通話する相手を登録する

自分の登録が終わったら、今度は通話する相手の登録です。相手にも同じようにWindows Liveメッセンジャーのアカウントを作ってもらい、アカウント(Hotmailのアドレス)を覚えてもらいます。覚えてもらったアドレスを登録すれば、電話をかけられます。



(メンバーの追加)をクリックする

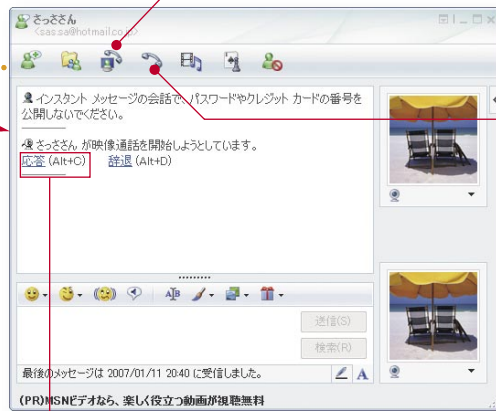
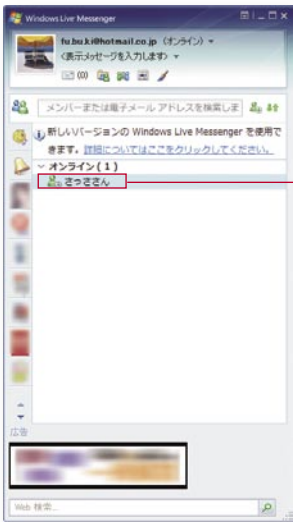


相手のアドレスを入力する

こちらの画面に相手のメッセージなどを表示するときの相手の名前を表示する(相手には、この名前は表示されない)

テレビ電話をかける

メッセンジャー(インスタントメッセージ)というのは、本来、同時にインターネットにアクセスしている人同士が、メッセージを送りあって会話するためのソフトです。それに、画像と音声がついたのが、Windows Liveメッセンジャーです。Windows Liveメッセンジャーを起動しておけば、メッセージが届くし、電話のアイコンをクリックすれば、電話がかけられるのです。



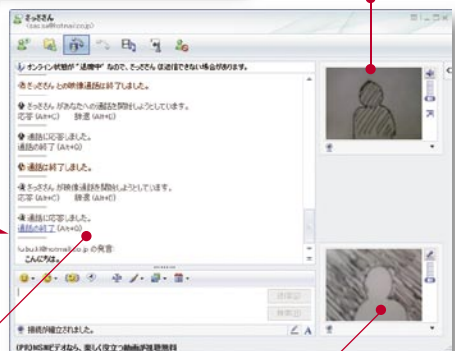
テレビ電話(映像+音声)で通話したいときはここをクリックする

電話(音声のみ)で通話したいときはここをクリックする

相手の映像が表示される

電話がかかってくると、呼び出し音が聞こえメッセージが表示される。「応答」をクリックするとテレビ電話開始

通話中も文字のメッセージを送受信できる。受信したメッセージはここに表示される。通話を終わるときは「通話の終了」をクリックする



自分の映像が表示される



ウェブはあなたの情報源

あなたはまた、分厚い辞書を引いてますか？ あなたはまた、地図帳をめくってますか？
今や、世界中のあらゆる情報を、パソコンから引き出せる時代。ウェブで調べてしましましょう。
ウェブ検索を使いこなすと、あなたの生活が変わるかも。

広がるウェブの世界

たとえばあなたがどこかに出かける
とき、天気予報、地図、乗り換え駅、電車
の時刻にはじまって、周辺の宿泊施設や
レストラン情報まで教えてくれて、予約
もできる。車で出かけるなら、駐車場の
収容台数や課金情報はもちろん、現在
の空き情報までわかることもある。そ
れがウェブの世界です。しかも、フィー
ドというシステムを使ったウェブ(ホー
ムページ)なら、情報が更新されると、自
動的に送られてくるのです。

ちょっと知りたいことがあったら、とり
あえずパソコンで検索してみましょう。

ただし、ウェブには、多くの信頼でき
ない情報もまじっています。信用する
かどうかは慎重に判断してください。

ブラウザを起動してウェブアドレスを入力

ウェブを見たいときは、[インターネット]のキーを押します。[Internet Explorer]が起動するので、サイトのアドレス(URL)がわかっているときは、直接入力します。

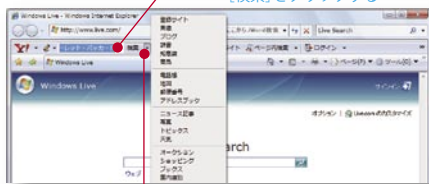
キーボードの
[インターネット]キー



キーワードで検索する

見たいサイトのアドレスがわからないときや、キーワードで関連するサイトを探したいときに、検索エンジンを使います。ここでは「Yahoo!検索」を使ってみましょう。キーワードを入力して検索すると、そのキーワードを含むサイトの一覧が表示されます。画像やニュースに絞った検索もできます。キーワードは、間に空白を入れて、複数並べると、条件を絞り込めます。アドレスの入力欄にキーワードを入れても、リンク一覧が表示されます。

ここにキーワードを入力して
[検索]をクリックする



▼をクリックすると、検索対象
を変えて検索できる



検索結果のリンク一覧。アドレスをクリックすると、
サイトを見ることができる



【画像】をクリックすると、キーワードに関連する画
像を検索する



【ニュース】をクリックすると、キーワードに関連す
るニュースを検索する



【地図】をクリックすると、キーワードや住所から検
索して地図や航空図を表示する

いろいろな検索エンジン

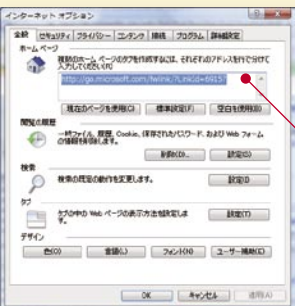
検索エンジン（キーワードを入力すると、関連するサイトを検索してくれるサイト）にはいろいろなものがあります。使い勝手に好きなものを選びましょう。「Internet Explorer」で、「ツール」→「インターネット オプション」を選ぶと、好きな検索エンジンを最初の画面に指定することができます。



http://www.google.co.jp/



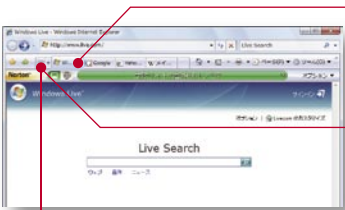
http://www.yahoo.co.jp/



ここに、最初に表示させたいサイトのアドレスを入力する

タブで画面を選ぶ

次から次へといろいろなサイトを見ていると、前に戻りたくなることがあります。そんなとき、前に見た画面をタブにとっておくと便利です。リンクを右クリックして[新しいタブで開く]を選ぶ（または、[Ctrl] キーを押しながらリンクをクリックする）と、タブの画面を増やすことができます。並んだタブから、見たいものを選ぶので便利です。



見たいタブをクリックすると、画面が切り替わる

「クイックタブ」をクリックすると、タブの一覧が見られる

をクリックする



今開いているタブの画面が一覧表示される。画面をクリックすると、その画面に切り替わる

「お気に入りに追加」→「お気に入りに追加」をクリックすると、「お気に入りセンター」の一覧に登録される

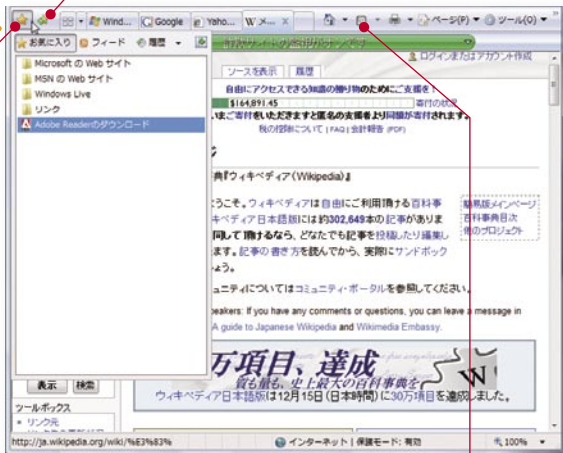
お気に入りとフィード

気に入って何度も見たいサイトは、「お気に入りに追加」をクリックすると、登録しておくことができます。

お気に入りのサイトの情報が更新されているかどうかは、普通はアクセスしないとわかりませんが、RSSやATOMというサービスに対応したサイトの情報は、登録しておけば更新されるとすぐにわかります。このように、更新があるとすぐ知らされるしくみや、供給されるデータを「フィード」といいます。サイトは「フィード」で登録します。

登録したお気に入りサイトやフィード、最近見たサイトの履歴は、お気に入りセンターで一覧表示し、そこから選べます。

お気に入りセンター
お気に入りに登録したサイト、フィードの最新情報、最近見たページの履歴などが表示される



「フィード」アイコンがオレンジに点灯しているときは、フィードできるサイト。ここをクリックし、「このフィードを購読する」を選ぶと登録できる

みんなで作る百科事典

棚に並んだ百科辞典は、応接間の飾りだったり、情報がとくに古くなっていることも多いようですが、日々、最新情報に更新されている生きた百科辞典があります。「ウィキペディア」というサイトで、基本方針に賛同すれば誰でも投稿、編集ができます。いきなり検索エンジンで全サイト検索する前に、ここで調べてみるのもひとつの手です。

http://ja.wikipedia.org/





ブログ（簡単更新型ホームページ）で日記をつける

自分のホームページを作ってみたくいけれど、初心者だし、やっぱりよくわからない。そう思っていますか？
それなら話題のブログはいかががでしょう。ブログは、かんたんに更新できるように作られたホームページです。
開設も更新も驚くほど簡単にできます。デジタルライフの第一歩にチャレンジしてみましよう。

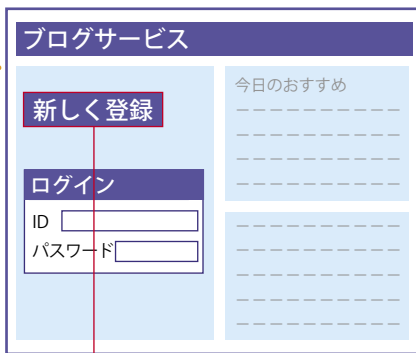
すぐにできるブログ

ホームページを作るには、ある程度の知識や技術が必要です。ホームページ作成ソフトを使えば、簡単に作ることはできますが、アップロードする場所の契約や、アップロードの手間などがかかります。

そこで、ブログという、手軽で便利なスタイルのホームページが登場しました。ブログは、ウェブブログの略で、「ウェブ（ホームページ）に記録する」という意味です。ブログの記事は、メール感覚で気軽に更新できるので、日記、意見、感想、面白いニュースなどを書き込んでみましょう。趣味の成果や専門知識を披露する場としても活用できます。

ブログサービスに登録する

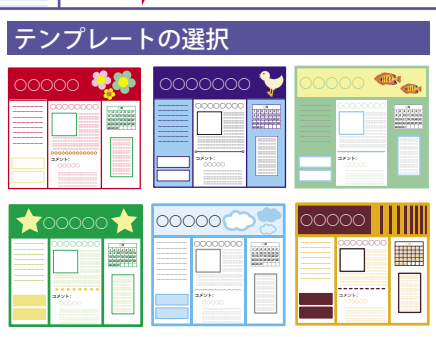
まず、ブログのページ枠を提供してくれる、ブログサービスを探します。無料のブログサービスもたくさんあります。いろいろなブログサービスのホームページを見て、デザインや雰囲気、機能など、自分に合ったサービスを探しましょう。あなたが契約しているプロバイダもブログサービスがあるかもしれません。



ブログサービスを決めたら、トップページから、登録や新規というコーナーを選ぶ

新規登録	
メールアドレス	<input type="text"/>
性別	<input type="text"/>
ハンドルネーム	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>
ブログID	<input type="text"/>
タイトル	<input type="text"/>
内容	<input type="text"/>

デザイン(テンプレート)も選ぶ



メールアドレスの確認もかねて、一度メールが送信され、その中にあるホームページアドレスにアクセスすると、本登録という仕組みになっていることも多い。これで一般的な登録は完了

メールアドレスや性別などの簡単な個人情報と、これから作成するブログのブログID（ホームページアドレスの一部）や、記事を書き込むときのパスワード、タイトルなどのブログ管理情報を入力する

ブログサービスを選ぶヒント

- ・デザインの多さや好みで選ぶ
- ・ライフスタイルにあうものを選ぶ（携帯から記事を入力できるかどうかなど）
- ・見てくれる人がたくさんいるかどうかで選ぶ（ブログサービスのページで紹介してくれるなど）
- ・使いやすさで選ぶ

ブログ作成の流れ

ブログを登録する (初回)

- ブログサービスを選ぶ
- ユーザー登録する (デザインを選ぶ)

記事を書き込む

- ブログサービスのページから ログオンして管理画面に入る
- 記事を書き込む
- ログオフする



ブログサービスのウェブ画面でかんたんな登録作業を行い、あらかじめ用意されているデザインを選んで、入力枠にタイトルや内容を書き込めば、もうブログは完成です。

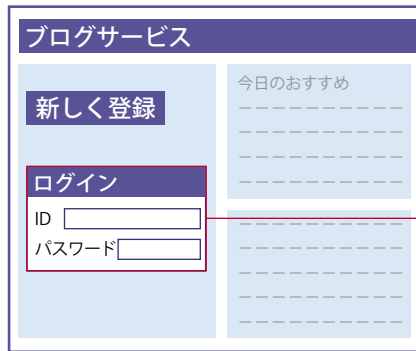
ここでは、一般的なブログサービスの登録や更新の様子を紹介します。

自分のブログに記事を書き込む

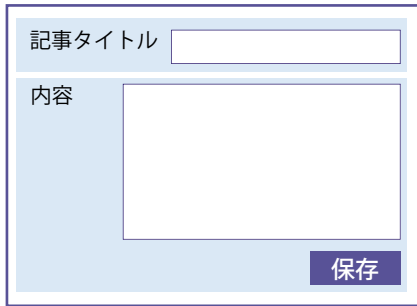
ブログの枠を登録したら、いよいよ記事を書き込みます。

一般に、書き込みは、ブログサービスのホームページで管理者の画面にログインして、「新しい記事を書く」や「新規投稿する」などのコーナーで行います。この管理画面にログインするときに、はじめに登録したときのパスワードが必要です。

メール作成画面のような、記事の入力フォームが表示されるので、記事を入力し、「保存」[投稿]などをクリックすれば書き込みができます。ブログの確認ができるコーナーで、記事が掲載された画面を見てみましょう。

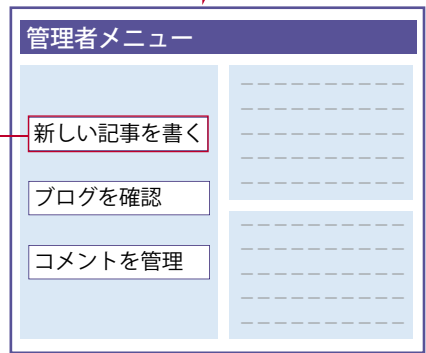


ブログの管理者用の画面にログインするために、IDとパスワードを入力する(新規登録した初回は、管理画面に入っているのでログインは必要ない)



「新しい記事を書く」や「新規投稿する」などのコーナーに入る

記事の入力フォームで、記事のタイトルや文章を入力し、「保存」[投稿]などをクリックすると、記事がブログに表示されるようになる



掲示板とコメント

ホームページには、掲示板というシステムがあります。見るだけのホームページではなく、だれでも自由にコメントが書き込めるコーナーです。

普通のホームページで掲示板を作るには、掲示板のシステムを提供しているサービスを探して登録するなど、準備をしてホームページに組み込む作業が必要ですが、ブログには「コメント」という同じようなシステムが用意されています。

ブログの読者は、コメントという形で書き込みます。読んでくれた人と交流できるのは、ネットの醍醐味のひとつです。

他のブログと相互にリンクするトラックバックという機能があるのもブログの特長です。



LANと

r i 周 h e r a l s

周辺機器

家中のパソコンをLANでつなぐ
周辺機器(デバイス)を接続する

【日々の備え】

【生活と仕事】

【写真】

【映像】

【音楽】

【インターネット】

【LANと周辺機器】

【トラブル】

LAN & P e

■パソコンは、いろいろな周辺機器をつないだり、パソコン同士をLANでつないだりすることによって様々な力を発揮します。

■プリンタによって印刷が、スキャナによって画像の取り込みができるようになります。

■デジタルカメラや携帯電話のデータを取り込んだり、携帯音楽プレーヤに音楽を入れることもできます。

■パソコンをLANでつなぐと、パソコン間でデータをやりとりしたり、一台のプリンタを共有することもできます。インターネットも、LANでつながった全部のパソコンで使うことができます。

LANと 周辺機器

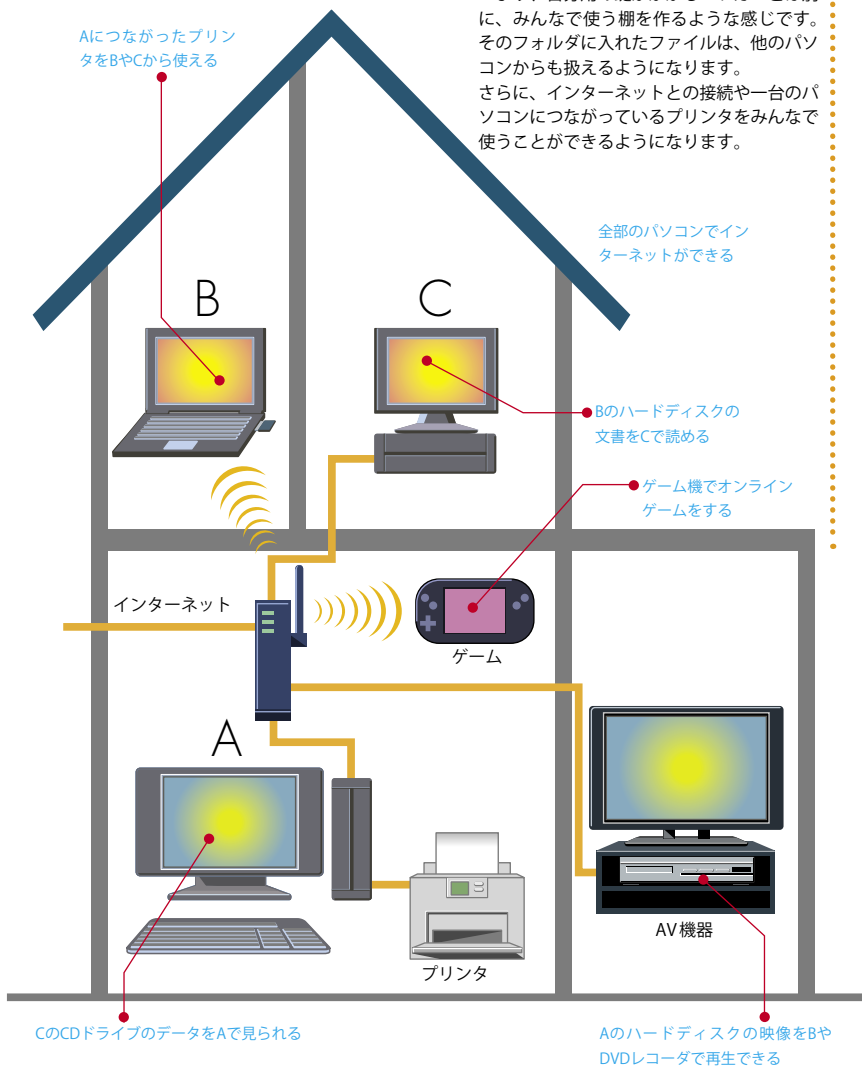
家中のパソコンをLANでつなぐ

リビングのパソコンには、プリンタもインターネットもつながっているけど、部屋のパソコンではネットが見られないし、印刷したいときはCDでリビングに持っていく。そんな人にぜひ試していただきたいのがLAN（ローカルエリアネットワーク）。パソコンをLANでつなげば、プリンタやデータを共有できます。

LANでつなぐと何ができる？

パソコンをLANでつなぐと、他のパソコンの共有フォルダを自分のパソコンのフォルダと同じように見ることができるようになります。自分のパソコンのフォルダも共有フォルダに設定すれば、他のパソコンから見えるようになります。

つまり、自分用の鍵がかかるロッカーとは別に、みんなで使う棚を作るような感じです。そのフォルダに入れたファイルは、他のパソコンからも扱えるようになります。さらに、インターネットとの接続や一台のパソコンにつながっているプリンタをみんなで使うことができるようになります。



便利な家庭内ネットワーク

今や、家庭に一台から、一人に一台をめざして普及するパソコン。

このパソコンを、一台ずつばらばらに使うのではなく、共有できるものは共有しようという便利な使い方がLANです。

パソコンをネットワークでつなぐと、一台分のインターネット接続やプリンタを、全部のパソコンから使えます。他のパソコンのデータも、自分のパソコンのデータのようにあつかえます。

DVDレコーダやゲーム機、大画面テレビなど、LANに対応している家電も増えています。これらをつなげば、さらに使い方が広がります。

LANでつなぐ

LANでつなぐために必要な機器は、つなぎ方によって異なります。ここではインターネット接続を前提としたつなぎ方を紹介します。

有線接続

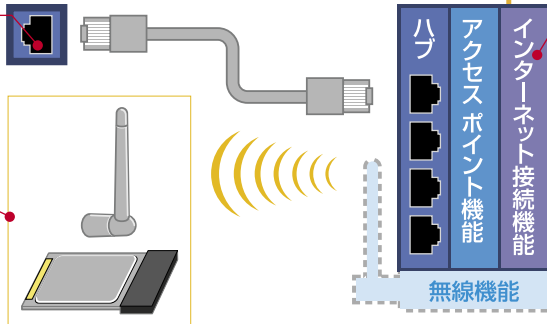
「Ethernet」や「LAN」と書かれたアダプタと、LANケーブル

最近のパソコンには標準で備わっているが、もしなければ用意する。USBタイプやカードタイプなどで、簡単に装着できる

無線接続

電波を送受信するための無線LANカードやアンテナ

無線LANポートは、標準装備されていないことが多い。無線ブロードバンドルータと同じ規格のものを用意して、PCカードスロットやUSBポートに装着する



インターネット

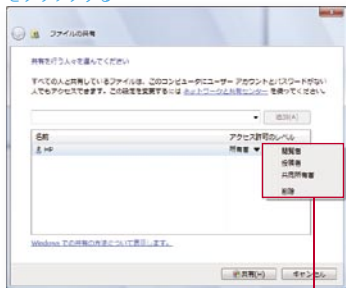
ブロードバンドルータ

LANには、物理的にコードを集めるための集線装置（ハブ）と、それぞれのパソコンに住所を割り当てるためのアクセスポイント自動設定装置が必要。インターネットに接続するために使うブロードバンドルータには、集線装置とアクセスポイント自動設定装置の機能を内蔵するものが多く、普通はこれ一台あればいい（ただし、回線の種類によって機器が異なるので、回線業者がLAN向けに推薦する機器を準備しよう）また、無線LANでつなぎたいパソコンがあるときは、無線機能が付いたブロードバンドルータを選ぶようにする

無線LANの規格			
規格	802.11a	802.11b	802.11g
速度	最大 54Mbps	最大 11Mbps	最大 54Mbps
周波数	5.2 ~ 5.3GHz	2.4GHz	2.4GHz
特徴	J52・W52・W53の三種類。JとWは互換性がない。	普及型。ホットスポットで採用。11aとは通信できない。	11bを高速化。11bと互換性がある。

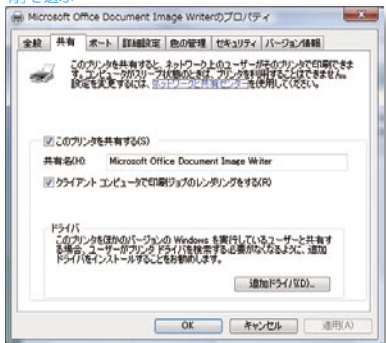
ケーブルをつないだら、それぞれのパソコンで、フォルダやプリンタを共有するための設定をします。

共有したいフォルダを選び、ツールバーの[共有]をクリックする



パソコンごとに共有するランクを設定できる

[スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド]の[プリンタ]を選び、共有したいプリンタのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[共有]を選ぶ



共有されるフォルダやプリンタのアイコンには、共有マークが付加される

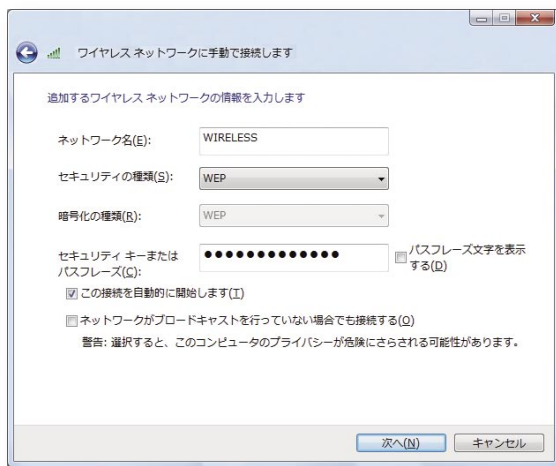
ケーブルがいらない無線LAN

離れた部屋に置いたパソコンをLANケーブルでつなぐのは、なかなかめんどうなことです。ドアの隙間や穴を通してケーブルをひいたり、2階までのぼしたりしなければなりません。

無線LANなら、ケーブルでなく、電波で情報をとばすので、ケーブルをひく手間がかからないし、ケーブルだらけにならずにすみます。ただし、電波は壁を通り抜けるので、セキュリティに注意しないと、隣の家のパソコンの情報を拾ってしまったり、逆にこちらのデータが外から見えてしまいます。無線ブロードバンドルータの説明書にしたがって、LANの存在を隠したり、暗号化する設定をしましょう。

また、壁や床などが電波の障害になるので、設置する場所には制限があります。

キーワードによってデータを暗号化する設定をしておくと、そのキーワードを設定しているパソコンだけが無線LANに接続できるようになる



LANと 周辺機器

周辺機器（デバイス）を接続する

スキャナなどの、パソコン独特の周辺機器を使ってみたい。デジタルビデオカメラをパソコンとつないで使いたい。その接続方法や、データを保存するメモリについて説明します。

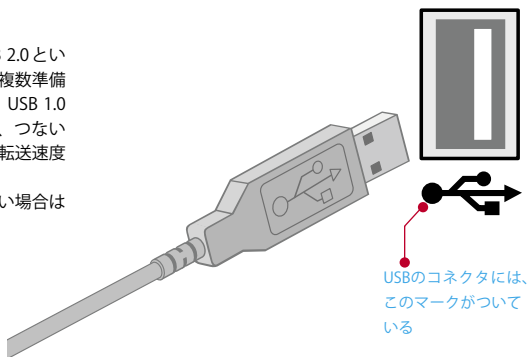
接続端子には規格がある

周辺機器（デバイス）の接続には、ドライバという、その機器をコントロールするソフトが必要です。パソコンには、新しいデバイスをつなぐと、それを検出してドライバをインストールする機能があるので、普通は接続ケーブルをつなぐだけで使えるようになります。

接続ケーブルを差し込むコネクタは、デバイスの規格によって異なります。パソコン専用のデバイスはUSB規格が主流ですが、AV機器などは、それぞれ規格によってコネクタが異なります。接続方法やドライバについては、機器側の説明書も必ずご覧ください。

USB規格で 接続する

多くのパソコン用デバイスは、USB 2.0という規格で接続します。コネクタも、複数準備されています。このコネクタには、USB 1.0やUSB 1.1という規格のデバイスも、つないで使うことができますが、データの転送速度はかなり遅くなります。接続ケーブルが機器に付属していない場合はUSBケーブルを準備します。



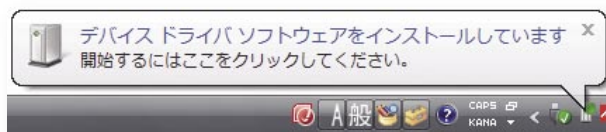
USBのコネクタには、このマークがついている

新しいデバイスをつないだとき

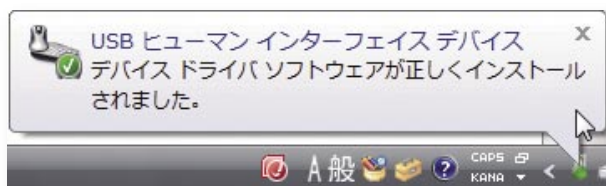
はじめてデバイスを接続すると、パソコンは「デバイス ドライバソフトウェアをインストールしていません」とメッセージを出し、自動的にドライバを探してインストールをはじめます。

ドライバが見つからない場合は、「新しいハードウェアを検出しました」というメッセージが表示されて、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が開くので、機器に添付されているCDをパソコンにセットするなど、ガイドにしたがってください。

デバイスや、デバイスが接続されたケーブルをコネクタに差しこむとメッセージが表示される



画面右下にこのメッセージが表示されている間、少し待つ



このメッセージに変わったら、デバイスを使用できる

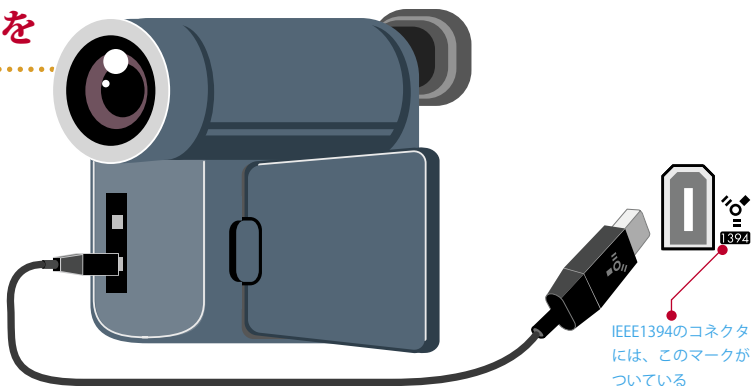
デジタルビデオカメラを接続する

デジタルビデオカメラは、一般にIEEE1394という規格で接続します。

(USBで接続する機種もあるので、デジタルビデオカメラの説明書を参照してください)

IEEE1394は「FireWire」「i.Link」と呼ばれることもあります。

一般に、接続ケーブルは機器に添付されていますが、添付されていない場合はカメラに付属のマニュアルを参照し、適合するケーブルを準備してください。



IEEE1394のコネクタには、このマークがついている

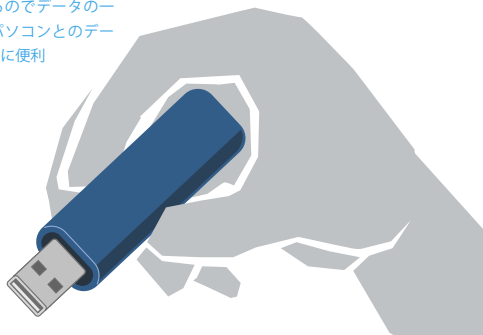
メモリカードを使いこなす

メモリカード(フラッシュメモリ)は、小型の、書き込みや消去ができる記憶装置です。持ち出しができるハードディスクのようなものです。

いろいろな種類がありますが、カード型のものが多くそろっています。

デジタルカメラや携帯電話のように、データをメモリカードに保存するものがあります。そのメモリカードをパソコンにセットすれば、ハードディスクと同様に扱えます。

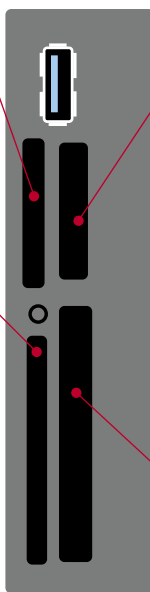
USBメモリは、USBコネクタに直接セットできるのでデータの一時保存や他のパソコンとのデータ受け渡しなどに便利



- SDカード
 - MiniSDカード
 - マルチメディアカード(MMC)
 - RSマルチメディアカード(RS-MMC)
 - マルチメディアカードプラス
 - マルチメディアカードモバイル
- メモリスティック
 - メモリスティックPRO
 - メモリスティックデュオ
 - メモリスティックProデュオ

- SmartMedia
 - xD-ピクチャーカード

- コンパクトフラッシュType I
- コンパクトフラッシュType II
- IBM Microdrive



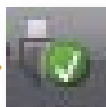
15in1カードリーダー

デバイスをはずすときに注意すること

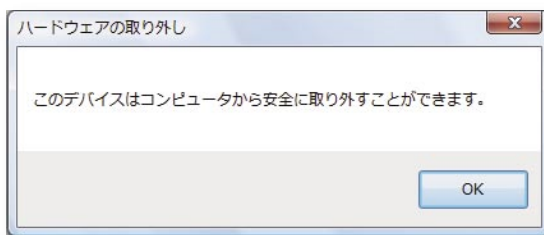
使い終わったデバイスは、パソコンの電源をつけたままでも取りはずしできます。

必ず、「デバイスの取り外し」の操作を行ってから取りはずしてください。

この操作を行わないと、デバイスの中のデータがこわれたり、正常に動作しなくなることがあります。



画面右下のこのアイコンをクリックし、「……を安全に取り外します」というメッセージが表示されたら、それをクリックする。このアイコンがないときは、**[X]**をクリックしてさす



この画面が表示されたら、[OK]をクリックしてデバイスははずす

■パソコンにトラブルが起きたときは、『サポートガイド』をご覧ください。

■パソコンを正常に起動できるときは、画面左下のスタートボタンをクリックすると表示される「ヘルプとサポート」も参考にしてください。Windowsの使い方は、この「ヘルプとサポート」画面の「Windows Vistaの使用」をご覧ください。

■ソフトや周辺機器に関することは、それぞれのマニュアルやヘルプをご覧ください。

■この章には、リカバリディスクの作り方と、システムリカバリの方法を掲載します。

■リカバリディスクは、システムリカバリを行うときに必要なので、作っておくことをおすすめします。

■システムリカバリは、『サポートガイド』に記載されている方法を試しても、パソコンが起動しない場合や正常に動作しない場合に行う復旧手段で、パソコンを購入時の状態に戻します。ハードディスクの購入後に作ったデータは、すべて消去されるので注意してください。

u b l e

ト ラ ブ ル T r o

リカバリディスクを作成する
システムのリカバリを行う

【日々の備え】

【生活と仕事】

【写真】

【映像】

【音楽】

【インターネット】

【LANと周辺機器】

【トラブル】

トラブル

Trouble

リカバリディスクを作成する

パソコンにトラブルが起きて、修復ができないときのために、リカバリディスクを作っておくことをおすすめします。リカバリディスクがあれば、パソコンを工場出荷時の状態に戻すことができます。ハードディスクの内容を完全に消去し、工場出荷時にインストールされていたOS、ソフト、ドライバを再インストールします。

リカバリディスクの作成

ハードディスクに格納されているリカバリイメージから、リカバリディスクのセットを作成します。

このイメージには、工場出荷時にパソコンにインストールされていたOS（オペレーティングシステム）、ソフト、ドライバが含まれています。お使いのコンピュータで作成できるリカバリディスクは1セットのみです。作成したリカバリディスクは、お使いのパソコンでのみ使えます。

DVDとCDの違い

リカバリディスクをCDではなくDVDで作成すると、つぎの利点があります。

- DVDはCDよりも容量が大きいので、ディスクが少なくて済みます。
 - DVDのほうが作成に時間がかかりません。
- リカバリディスクを作成するには、パソコンに、CD/DVD書き込みドライブ、または、CD/DVDに書き込み可能な他のドライブが搭載されている必要があります。

ディスクの数と作業の中止

リカバリディスクに使用されるディスクの数は、お使いのコンピュータのモデルによって異なります。

ディスクを作成するプログラムの画面上に、必要な空のディスクの数が示されます。

ディスクの作成は、ディスクに書き込まれた情報が正しいかどうかを確認するために、ある程度の時間がかかります。

作業はいつでも中止できます。次にプログラムを実行する時は、中止した場所から再開されます。

リカバリイメージの削除

リカバリディスクを作成した後、ハードディスクの使用可能領域を増やしたい場合は、リカバリイメージを削除してもかまいません。

注 リカバリCD、DVDを作成していない場合は、リカバリイメージを削除しないでください。

- 7 複数枚のディスクに書き込む場合は、ディスクが作成されたらそのディスクを取り出し、次のディスクを挿入して[次へ]をクリックします。



次のディスクの作成が開始されます。

- 8 ディスクが作成されたらディスクを取り出し、[次へ]をクリックします。



- 9 [終了]をクリックします。



作成したリカバリディスクにはラベル(リカバリ1、リカバリ2など)を付け、安全な場所に保管してください。

リカバリディスクを作成する

- 1 開いているすべてのプログラムを閉じます。
- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [PCヘルプとツール] → [システムのリカバリディスクを作成]の順にクリックします。



[ユーザー アカウント制御]が表示されます。

- 3 [続行]をクリックします。
[Recovery Manager]ウィンドウが表示されます。
- 4 [次へ]をクリックします。



- 5 空のディスク (CDまたはDVD)を必要枚数用意し、最初の1枚を挿入し、[次へ]をクリックします。



- 6 [次へ]をクリックします。



リカバリディスクの作成が開始されます。

トラブル

Trouble

システムのリカバリを行う

システムのリカバリは、ハードディスクのリカバリイメージから行う方法と、自分で作成したリカバリディスク（前ページ参照）を使う方法と、HPのサポート窓口で購入したリカバリディスクを使う方法があります。（リカバリディスクを購入するときは、<http://www.hp.com/support/>にアクセスし、ソフトウェアおよびドライバのダウンロードを行うページでお使いのパソコンのモデルを検索して購入してください）

システムリカバリの実行

システムリカバリを実行すると、つぎのようになります。

ハードディスクドライブの内容は完全に消去され、フォーマットされます。これまでに作成したすべての

データファイルが削除されます。システムリカバリによって、工場出荷時にインストールされていたOS（オペレーティングシステム）、ソフト、ド

ライバが再インストールされます。

注：パソコンでHPポケットメディアアダプティブを使っている場合は一部

のモデルのみ、システムリカバリのプログラムを起動する前に取りはずしてください。

システムリカバリ後に行うこと

工場出荷時にコンピュータにインス

トールされていないソフト（パソコンに同梱されているCDからインストールしたソフトやパソコン購入後にインストールしたソフト）は、システムリカバリ後に再インストールして

ください。

ハードディスクのリカバリ イメージからシステムリカバリを行う

● Windowsのスタートメニューから開始する方法

- 1 パソコンの電源を切ります。お使いのパソコンでHP ポケットメディア ドライブを使用している場合は取り外します。モニター、キーボード、およびマウス以外に接続されている周辺機器（USB接続機器、プリンタなど）は、パソコンからすべて取り外してください。パソコンの電源を入れます。
- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [PCヘルプとツール] → [Recovery Manager]の順にクリックします。



[ユーザーアカウント制御]が表示されます。


- 3 [続行]をクリックします。
[Recovery Manager] ウィンドウが表示されます。
- 4 [アドバンスドオプション]をクリックします。



- 5 [システムリカバリ]を選択し、[次へ]をクリックします。



リカバリ ディスクから システム リカバリを行う

- 1 パソコンが動作する場合は、残しておきたいすべてのデータファイルをCDまたはDVDにバックアップします。完了したら、ディスクトレイからバックアップディスクを取り出します。
- 2 リカバリ ディスク#1を、適切なドライブトレイ (CDまたはDVD) に挿入し、トレイを閉じます。
- 3 パソコンが動作している場合は、[スタート]→ロックボタンの隣の  ボタン→[シャットダウン]の順にクリックします。パソコンが応答しない場合は、パソコンの電源が切れるまで、約5秒間電源ボタンを押したままにします。



- 4 パソコンから、モニター、キーボード、およびマウス以外のすべての周辺機器を取り外します。
- 5 すべての外付けドライブを取り外し、お使いのコンピュータでHPポケットメディアドライブを使用している場合は、これも取り外します。
- 6 電源ボタンを押し、パソコンの電源を入れます。リカバリ ディスクからリカバリが開始されます。
- 7 画面に説明が表示されたら、その説明に沿って操作します。



警告: システム リカバリ オプションにより、パソコンの購入後に作成またはインストールしたすべてのデータやプログラムが削除されます。残しておきたいデータは、必ずリムーバブル ディスクにバックアップしておいてください。

- 8 次のディスクを要求された場合は、ディスクを挿入します。
- 9 リカバリ マネージャが終了したら、最後のディスクを取り出します。
- 10 [完了]をクリックします。パソコンが再起動し、一連の起動画面が表示されます。Microsoft Windowsの初期セットアップを行う場合は、いくつかの質問に回答する必要があります。
- 11 パソコンの起動および登録作業を完了させて、デスクトップが表示されるまで待ちます。その後パソコンの電源を切り、すべての周辺機器を接続しなおしてから、パソコンの電源を入れます。
- 12 工場出荷時にパソコンにインストールされていなかったソフトウェアを再インストールします。
- 13 バックアップ ディスクから、ハードディスク ドライブにデータファイルをコピーします。

パソコンが再起動します。



警告: システム リカバリ オプションにより、パソコンの購入後に作成またはインストールしたすべてのデータやプログラムが削除されます。残しておきたいデータは、必ずリムーバブル ディスクにバックアップしておいてください。

- 6 [次へ]をクリックします。
[Microsoftシステム復元機能を実行しますか?]と表示されます。
- 7 [いいえ]を選択し、[次へ]をクリックします。
[システムリカバリを実行しますか?]と表示されます。
- 8 [はい]を選択し、[次へ]をクリックします。
- 9 [ファイルを最初にバックアップしてください]または[ファイルをバックアップせずに復元する]を選択し、[次へ]をクリックします。
システム リカバリが開始されます。
- 10 システム リカバリが終了したら [終了]をクリックします。
パソコンが再起動します。
- 11 パソコンの起動および登録作業を完了させ、デスクトップが表示されるまで待ちます。その後パソコンの電源を切り、すべての周辺機器を接続しなおしてから、パソコンの電源を入れます。

●システム起動中に開始する方法

- 1 パソコンの電源を切ります。必要であれば、パソコンの電源が切れるまで電源ボタンを押したままにします。
- 2 お使いのパソコンでHPポケットメディアドライブを使用している場合は取り外します。パソコンから、モニター、キーボード、およびマウス以外のすべての周辺機器を取り外します。
- 3 電源ボタンを押して、パソコンの電源を入れます。
- 4 起動中にHP Inventのロゴが表示されたら、キーボードの[F11]キーを押します。(通常の起動プロセスが再開されるまでに、[F11]キーを押せる時間は数秒のみです)
リカバリ マネージャ プログラムが開始されます。
- 5 画面に説明が表示されたら、その説明に沿って操作します。



警告: システム リカバリ オプションにより、パソコンの購入後に作成またはインストールしたすべてのデータまたはプログラムが削除されます。残しておきたいデータは、必ずリムーバブル ディスクにバックアップしておいてください。

- 6 パソコンの起動および登録作業を完了させて、デスクトップが表示されるまで待ちます。その後コンピュータの電源を切り、すべての周辺機器を接続しなおしてから、パソコンの電源を入れます。

索引

【日々の備え】

【生活と仕事】

【写真】

【映像】

【音楽】

【インターネット】

【LANと周辺機器】

【トラブル】

A
Adobe Reader 020

B
BBC 058

C
CD-R 028
CD 029

D
DVD 044

DVDに保存する 044
DVDを見る 032

E
Excel 019

H
Hohmail 061

HPポケットメディアドライブ 007

I
IEEE1394 071

INFO.TV Plus 036

Internet Explorer 062

L
LAN 068

N
Norton Internet Security 008
011

O
Outlook 016

Outlookメッセージ形式 059

P
PDF 020

PowerPoint 019

R
Recovery Manager 075
076

S
SSL 013

U
USB規格 070

W
Windowsアドレス帳 058

Windowsセキュリティセンター 009

Windowsフォトギャラリー 024
027
028

Windowsムービーメーカー 042

Windows Defender 009

Windows Liveメッセージャー 060

Windows Media Center 024
026
028
032
034

Windows Media Centerの使い方 034

Windowsメール 056

Word 018

Y
Yahoo!検索 062

あ
宛先 058

アドビリーダー 020

い
一太郎SE 018

う
ウイルス 008

ウイルス対策ソフト 008

ウェブ 062

ウェブカメラ 060

え
映像の編集 042

お
お気に入り 063

おまかせ録画 041

音楽CDを再生する 048

音楽配信サイト 051

音楽ファイル形式 052

く
グリーティングカード 017

け
掲示板 065

携帯音楽プレーヤ 053

検索エンジン 063

こ
個人情報 012

ごみ箱 007

コメント 065

さ
再生リスト 049

三四郎SE 019

し

システムのリカバリ 076

自動更新 009

写真スタジオ 027

写真の印刷 028

写真の書き出し 029

写真の修正 026

写真の取り込み 024

ジャストホーム 016
018
027

周辺機器 070

署名 059

す

スパイウェア 009

スライドショー 025

た

ダウンロードサイト 050

タグ 025

ち

チャンネルの設定 (INFO:TV Plus) 036

チャンネルの設定 (Windows Media Center) 034

て

デジタルカメラ 024

デジタルビデオカメラ 043
071

デバイス 070

テレビ電話 060

テレビを見る (INFO:TV Plus) 036

テレビを見る (Windows Media Center) 034

テレビを録画する (INFO:TV Plus) 037

テレビを録画する (Windows Media Center) 035

添付 059

と

ドコモTV2 041

ね

年賀状 016

は

バックアップ 006

バックアップと復元センター 006

ハブ 069

番組ガイド 038

番組表 040

ひ

ビットレート 052

表計算 019

ふ

ファイアウォール 010

ファイルの添付 059

ファイルを復元する 007

フィード 063

フィッシング詐欺 012

プレイリスト 049

ブロードバンドルータ 069

ブログ 064

プロバイダ 057

ほ

ホームページ 064

む

無線LAN 069

め

メール 056

メモリカード 024
071

ゆ

ユーザーアカウント制御 009

ら

ライブラリ 049

楽々はがき 016

り

リカバリイメージ 074

リカバリディスク 074

リモコン (INFO:TV Plus) 037

リモコン (Windows Media Center) 033
035

る

ルータ 069

ろ

ローカルエリアネットワーク 068

録画予約 (INFO:TV Plus) 041

録画予約 (Windows Media Center) 039

わ

ワンクリック詐欺 012

ワープロ 018

【日々の備え】

【生活と仕事】

【写真】

【映像】

【音楽】

【インターネット】

【LANと周辺機器】

【トラブル】

Hewlett-Packard製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

HP以外によって製造された装置上のソフトウェアの使用または信頼性につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、HPの書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

© Copyright 2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

HPはテクノロジーの合法的な使用を推進しており、HPの製品を著作権法で許可されていない目的で使用するのを是認するものではなく、推奨もしません。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

活用ガイド

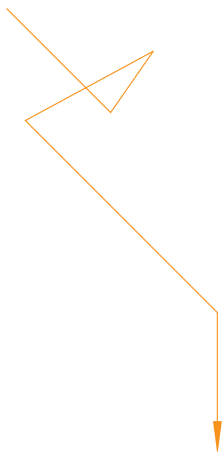
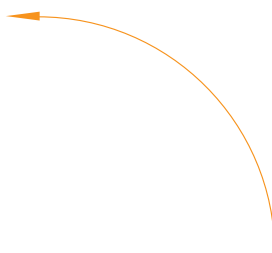
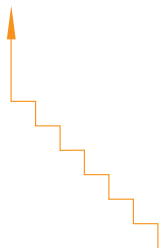
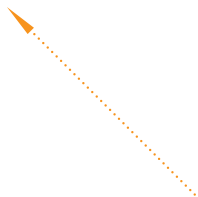
初版 2007年3月

製品番号： 5991-8744

日本ヒューレット・パッカード株式会社



Printed in Japan



日々の
備え

生活と
仕事

写真

映像

音楽

インターネット

LANと
周辺
機器

トラブル